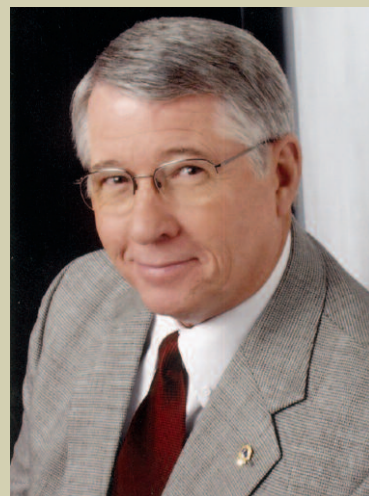
ライオン誌10月号 2006年（平成18年）9月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第49巻第4号

We Serve

# CONTENTS

国際会長メッセージ

# 青少年プログラムは未来への投資

## Youth Activities: Our Stake in Tomorrow

2006-07年度国際会長
ジミー・M・ロス
Jimmy M. Ross

「今日の青少年は明日を象徴する存在である」という言葉を、皆さんは何度も耳にしたことがあるでしょう。この言葉はまさしく真実であると、私は確信しています。なぜなら、若者はいろいろなことを学び、成長を遂げることによって、力強い優れた指導者としての能力を身につけていくからです。ライオンズはこれまでも積極的にこの分野に取り組み、今後も成果を上げ続けるでしょう。私たちは青少年を支援することで、共により良い世界の構築を目指さなければなりません。全会員はそのことを自覚し、最善を尽くそうと固く誓っているはずです。

　例えば、レオクラブは1957年以来、ライオンズが活動しているあらゆる地域社会において、青少年に明るい未来を保証する手助けをしてきました。このプログラムを通して数十万人もの青少年はリーダーシップを身につけ、地域社会奉仕の必要性を理解する機会を与えられています。彼らはレオとしての期間を終えてからも、奉仕活動への意欲を持ち続けることになるでしょう。まだレオクラブのスポンサーを務めていないクラブは、本年度内にスポンサーとなることを考えてみてください。このプログラムがそれぞれの地域社会、クラブ、そしてもちろん青少年自身にも、計り知れない利益をもたらすことが理解出来るでしょう。

　国際協会の三つの青少年プログラムは、世界の調和と友好を大きく促進しようとするものです。国際青少年交換（YE）とユース・キャンプは、歴史、政治、宗教、文化的な背景の異なる人々と出会い協力することを通して、青少年に他者の

価値観や互いを尊重し理解することの大切さを認識させます。ライオンズ国際平和ポスター・コンテストは、国際協会が実施している最も評判の高い青少年プログラムの一つです。コンテストには数年来、毎年11歳から13歳までの少年少女35万人余りが参加しています。彼らは平和に対するそれぞれの思いを芸術に託し、「世界の人びとの間に相互理解の精神をつちかい発展させる」というライオンズクラブ国際協会第一の目的を視覚的に表現しています。ＹＥと平和ポスター・コンテストは共に、より良い世界、より人間的な世界の構築に対する各クラブの熱意を示すものなのです。

　ライオンズクエストもまた、青少年プログラムとして高い評価を受けています。このプログラムは１９８４年に開始されて以来、25カ国の教室へと拡大を遂げ、青少年が健全な人格と社会的態度を身に付けられるよう支援しています。「成長期への対応」「思春期への対応」「飛躍への対応」の三つのカリキュラムは、それぞれ小学生、中学生、高校生を対象とするものです。現在ＬＣＩＦが単独で運営するライオンズクエストは、過去の実績と将来のビジョンを併せ持つプログラムとして、ライオンズが教育者や青少年と協力する機会を提供しています。

# INTERNATIONAL PRE

ボストン国際大会終了後の国際理事会で、議長として采配をふるうロス国際会長

　ご存じの通り、「ライオンズ児童奉仕プログラム」は、私たちの最新の青少年活動の一つです。その目的は、過酷な環境に暮らす児童のニーズに応え、医療や教育を提供することです。このプログラムは現在、地域と国際双方のレベルで進められ、世界中のあらゆるライオンズクラブの参加を待っています。

　皆さんのクラブが必要と考えるだけの青少年活動を実施していない場合には、この分野における「パラダイム・シフト」を実現してください。より安全、健全、そして平和な未来を築くためには、それぞれの地域社会に奉仕し、他者に手を差し伸べることが不可欠です。青少年がその事実を認識出来るよう、彼らと力を合わせて取り組もうではありませんか。

# 直そう

長身でスマートな体躯のジミー・M・ロス国際会長は、カウボーイハット姿で公式訪問の会場に登場。日本のライオンズに向けて、力強いメッセージを述べた。

◆

ロス会長はまず、日本のライオンズの指導力と貢献を非常に高く評価した。

「長年にわたって皆さんが国際協会で発揮されている卓越した指導力と、ライオニズムに根差した献身的な活動に対して、心からの敬意と感謝を申し上げます。日本の会員の質の高さ、奉仕事業の質の高さ、そしてLCIFへの貢献は非常に高く評価されています。視力ファーストIキャンペーン（CSFI）、CSFⅡにおいても、皆さんは真にリーダーであります。世界中のライオンズが、日本の活躍を称賛し敬意を表しています。また日本の国際理事の皆さんは国際理事会において有益な意見を発表され、私も多くのことを学んでいます。私は日本のライオンズが、将来の国際会長となる国際第2副

# 「ウィ・サーブ」のテーマの下で自らの活動を見つめ

「ウィ・サーブ」をテーマに掲げてクラブ刷新を訴えるジミー・M・ロス国際会長とヴェルダ夫人が来日。9月7日に神奈川県横浜市で330・331・332・333複合地区、9日に広島市で336・337複合地区、10日に愛知県名古屋市で334・335複合地区の公式訪問が行われた。

ロス国際会長夫妻は6日朝、訪問先のドイツから成田空港に到着。1週間の滞在中に常陸宮正仁親王殿下、同妃殿下を表敬訪問したのを始め、各訪問先で県知事や市長を訪ねて懇談した他、広島では原爆死没者慰霊碑への献花や原爆資料館の見学など精力的に活動した。トレードマークのカウボーイハット姿と爽やかな笑顔で日本の会員と触れ合い、ロス会長夫妻は12日朝、関西空港からアメリカ・イリノイ州シカゴに向け出発した。

会長を送り出してくれることを期待しております」

過去数年にわたり、歴代の国際会長は明確な会員増強策と数値目標を打ち出したが、ロス会長は目標設定を地区ガバナーの課題とし、地区のニーズに合ったエクステンション、会員増強を求めている。公式訪問では自ら掲げる目標について述べ、日本にも奮起を促した。

「ボストン国際大会で私は、今年度中に15のライオンズクラブを結成すると表明しましたが、現在までに既に12クラブを発足させました。目標を達成し、更に多くの新クラブを誕生させたいと考えています。今日ここにお集まりの皆さんも、ぜひ私と共に新クラブの結成に力を尽くしてください。新クラブの結成は、奉仕のニーズがありながら、これまで我々の活動が行き届かなかった地域にライオニズムをもたらすことになります。それぞれの地区で、ライオンズを必要としている地域がないか、よく検分してください。それによって、現在のクラブが見落としてい

写真上から：330･331･332･333複合地区公式訪問（横浜ロイヤルパークホテル／参加430人）、336･337複合地区（広島全日空ホテル／400人）、334･335複合地区（ウェスティンナゴヤキャッスル／335人）

るかもしれないニーズに応えることになるのです。単に数を増やすというのではなく、ニーズに応じたクラブを作るということです」

国際会長テーマとした「ウィ・サーブ（われわれは奉仕する）」に込めた思いについても語った。

「我々が何者であるか、何を成すべきかという原点に立ち戻り、それを再確認するための一つの方策として、我が協会のモットーである『ウィ・サーブ』を会長テーマに選びました。長年掲げてきたこのテーマの下、皆さん自身に、自分たちは何をしたいのか見据えて頂きたいのです」

奉仕活動に関しては、ロス会長は大災害発生時に迅速に緊急援助を展開するためのマニュアル作成を進めており、次のような発言もあった。

「私は災害時にライオンズがどのような支援体制が取れるのか示したいと思います。近い将来、被災地でいち早く救援活動に従事するライオンズの姿を、世界中の人々が目にするようにしたいのです」

◆

ロス会長は就任演説で、「パラダイムシフト（Paradigm Shift）」の必要性を強調した。従来の活動を徹底的に検証し、必要に応じて認識や姿勢を改め、新たな発想や方法に置き換えていかなければならないと訴えている。「クラブ刷新の年」のこの1年、地区においても、クラブにおいても、自らが主体的に考え、刷新を実現させることが求められている。

国際会長ご夫妻は9月8日、広島平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に献花を行い、亡くなった被爆者の冥福を祈った。更に広島平和記念資料館を見学した会長は、「人類はこの悲劇から学ばなければいけない」と語った

国際理事だより

■国際理事
谷野徹
（山口県・下関ウエスト）

# 多くの会議に出席し、日本ライオンズの理解を深めていきたい

　第89回ボストン国際大会へ出席のため、関西空港から出発したのが6月28日。デトロイト経由でボストンに向かいましたが、目的地の天候不良で予定の航空便が運航中止となり、ホテルに到着したのは真夜中近く。地球を1周するほどの長い1日でした。

　翌29日は、日本から送ったパレード用のプラカードや配布物の確認、そして各会場を見て回り、本番に備えました。30日は国際理事候補者昼食会と指名委員会に出席、正式に立候補者としての指名を受けました。

　7月1日のインターナショナル・パレードには日本から800人が参加。マーチング・バンドと共に賑やかに行進し、小さな鯉のぼりが注目を集めました。我々夫婦も国際理事候補の横断幕とプラカードを背に行進しました。大変晴れがましく素晴らしい経験をさせて頂き感謝しております。なお、日本はコスチューム部門で第2位に入賞したことを付け加えておきます。

　2日の開会式は、最前列に座って参加。3日は第2本会議で国際理事候補者の立会演説会が行われ、名越勉元国際理事の応援演説の後、50秒足らずの短いスピーチでしたが、候補者としての抱負を、緊張のうちにも何とか発表出来ました。大会最終日の4日の閉会式を迎え、閉会直前に国際理事としてステージの上に呼び上げられた時の感激と栄誉は、今までに感じたことのないものでした。

　早速、その日の午後から理事会バナー交換昼食会、理事会、オリエンテーション、翌5日は早朝7時から委員に指名された特別委員会や所属する国際大会委員会の会議、理事会昼食会等に出席し、新執行部の晩餐会でボストンでの全行事が終了しました。

　帰路は順調で、7月7日に下関へ帰郷しました。休む暇なく今度は複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（2回）、石橋幹雄元国際理事の退任慰労会、複合地区国際大会委員長連絡会議、ライオン誌日本語版委員会などの各会議に出席しました。

　私の国際理事就任祝賀会については準備期間も短く、全国から本州最西端の下関へお越し頂いても十分なおもてなしが出来ないと判断し、辞退致しました。代わりにこちらから出向いて親しくごあいさつし、私を身近に感じて頂くことの方が今後の国際理事の活動に役立つと考え、各複合地区のガバナー協議会に出席させて頂くことにしました。既に第1回ガバナー協議会が終了していた335複合地区は、10月中旬の第2回会議に出向く予定です。

　もとより私は地区ガバナーからそのまま国際理事に就任したこともあり、全日本レベルでのライオンズの各委員会に関する知識、人脈は決して十分とは言えません。幸いなことに伏見龍国際理事、山田實紘国際理事という素晴らしい先輩がおられますので、ご両名の指導を仰ぎながら当面は出来るだけ多くの会議に出席し、日本のライオンズに関する理解を深めると共に、皆様との出会いを通じて、後半の飛躍に備えたいと考えております。また、現在は9月のロス国際会長の公式訪問の準備に向けて頑張っております。

　皆様のご理解とご協力を期待して私の第1回目の国際理事だよりとします。

THEME アクティビティ II

# クラブの活力とアクティビティの源泉を探る

活力に満ちたクラブは、アイデアと企画力、実行力で、アクティビティを成功に導いていく。
では、そのアクティビティが生まれる土壌となるクラブはどんなクラブか。
活力の源は何なのか。
編集部では、数々の独創的な活動に取り組み、
昨年度はエクステンションも果たした愛媛県・今治くるしまライオンズクラブに注目。
同クラブがこれまでに取り組んだいくつかの事業の担当者の証言から、
アクティビティを生み出す源にあるものを探ってみた。

瀬戸内に浮かぶ芸予諸島の島々と今治をつなぐ来島海峡大橋

瀬戸内の島々をつなぐ「しまなみ海道」で、本州の広島県尾道市と結ばれた今治市。人口18万余り、松山に次ぐ県下第2の都市だ。古くからの海上交通の要所で、造船とタオル生産で知られる。近頃の需要拡大で造船業が息を吹き返した一方で、世界一を誇るタオル生産は安価な輸入製品に押されて低迷。地場産業の苦況は地域に暗い影を落としている。

今治くるしまライオンズクラブは、バブル崩壊後の1993年1月、市内で4番目のクラブとして結成された。結成後、一時は70人を超えた会員数は、不況のあおりで現在は48人にまで減った。それでもなお、ユニークな内容のアクティビティを始め、その活動ぶりからはクラブの活力が感じられる。

## 証言1 若い会員の意見も積極的に取り入れる

「若い者が突拍子もないことを思いついても、良いことだと思ったら、皆が協力してくれる。それがうちのクラブの素晴らしい気質」（ライオン後藤浩文／03年度PR委員長）

「これまでとは全く違った発想が出てきた時に、年代の違いを超えて、それを理解し取り入れることが出来るというのは、このクラブの良い所だと思う」（ライオン中村倫浩／元会長）

3年前にPR委員長を任されたライオン後藤は、地元FMラジオによるクラブのPR番組放送を提案した。

就任して間もなく、336・A地区（四国4県）のPR委員長セミナーに出席したライオン後藤は、市民を対象に実施したアンケートの結果を聞かされた。ライオンズクラブに対する市民の認識は予想以上に低く、「野球チーム」「マンションの建設者」など、がっかりするような回答が並んでいた。地域の人々にほとんど理解されていないという結果だった。どうしたらライオンズについて正しく認識してもらえるのか……。出席者に問題提起した形で、セミナーは終わった。その時ふっと、ライオン後藤の頭に浮かんだのが、開局して間もない地元のコミュニティー放送局「エフエムバリバリ」だった。

クラブがスポンサーになって、P

Rの番組を放送してはどうか。1日中、同じ局をつけっぱなしにする人や店舗は結構あるもので、効果は期待出来るはずだ。問題はスポンサー料。既に年度が始まっていて予算もついていない。それならば、クラブ会報の編集作業を自らパソコンでこなしてコストを削減し、費用を捻出すればいい。委員会で打開策を練り、理事会に上げた。

提案したPR委員長本人が「突拍子もない」と思った案は、「それ面白い。やってみいや」と理事会を通り、例会の承認も受けて実現されることになった。

週1回、10分間のラジオ番組「我ら、くるしまライオンズ！ ガオー!!」は現在も放送中。会員が交替で出演して、クラブの活動をPRする。「最初は皆ガチガチに緊張して、それが面白かったんですが、最近はアナウンサーとの息もぴったり。だんだん慣れて余裕が出てきました」と、ライオン後藤。リスナーからの反響も出始めて、徐々にPR効果が現れ始めている。

ラジオPR「我ら、くるしまライオンズ！ ガオー!!」

今治市の地域放送エフエムラジオバリバリ（78.9MHz）で、毎週水曜日12時50分から10分間放送中。会員と女性アナウンサーとの掛け合いでクラブの動向を紹介したり、アクティビティの告知を行っている。スタートから2年半が経ち、この番組での告知を聞いて献血運動に駆けつけてくれたり、環境保全の啓発活動として紹介したクラブのエコ・バッグについて問い合わせが届くようになった。一方通行のPRではなく、リスナーから反響が返ってくることに手応えを感じている。番組のスポンサー料は年間37万8千円。

## 証言 2 知恵と豊富なアイデアを生かす

「頭を使い、知恵を絞って、いろんな意見が出る。いい意見が出てきたら、とにかくやるという前向きな方向で皆の気持ちがまとまっていく。『それはいかん』と頭から否定するようなことがない」（ライオン越智弘和／今年度クラブ会長）

前述のPR活動にしても、アクティビティにしても、会員のユニークなアイデアが活動にうまく生かされている。その一例が、今年1月に開催された「子どもたちが作る世界の料理コンテスト」。青少年健全育成委員会の池田正彦委員長（当時）の発案による企画だ。ライオン池田は、日頃から気になっている問題を、まとめて子どもたちに教えられないだろうかと考えた。

食＋環境問題＋もったいない運動＋国際交流＋世界平和……。そんな、かなり欲張りなアイデアから、このコンテストを思いついたのだと言う。

「料理という媒体を通じてなら、言葉の通じない外国人と交流することが出来るはず。それなら、グループを作ってコンテスト形式にすれば楽しくなる。そうやって委員会でストーリーが出来ていった」と、同委員会で副委員長を務めたライオン石水均は話す。

そうして、今治に暮らす外国人をコーチ役に、小中学生のグループが世界の料理に挑戦。コーチのレシピに従って、作戦会議から材料の買い出し、調理、後片付けまで共同作業で行うという企画がまとまった。

「ただお金を出すだけの活動はやめよう、労力を使おうというのが結成時のポリシーで、クラブの原点。だからアクティビティでも何でも、皆そういう方向で発言が出るし、豊富にアイデアも出てくる」

チャーター・メンバーの一人で、15年前、クラブ結成の中心になったライオン中村が話すように、今治くるしまライオンズクラブでは、結成時に掲げられた方針が、揺らぐことなくクラブを支えているようだ。

結成当時、スポンサーである今治

東ライオンズクラブのガイディング・ライオン故ライオン村上巖に、「我がクラブの起爆剤になってくれ。やりたいと思ったことは、何でもやってみろ」と、繰り返し発破をかけられた。ライオンズ全体に広がるマンネリを、新しいクラブに打破してほしいという願いがあったのかもしれない。

そんな期待の中、結成に向けた議論を重ねるうちに、クラブの理念が出来上がっていく。前述した労力奉仕の重視もその一つ。そして、今治くるしまライオンズクラブの活力の源は、ライオン中村の次の言葉に表現されているように思われる。

「（結成時のメンバーで）我々のクラブはとにかく話し合いをしよう。とことん話して決まったら必ずやり遂げよう、と決めた。この考え方がクラブの歴史にずっと流れている」

## 証言3 とことん議論して、全員が協力

「話し合いの中では当然、反対意見も出る。それをどんどん戦わせて（意見を）全部出し切って、最後には多数決で決まったら、『よっしゃ』とそっちに向かっていく」（ライオン志賀勝則／元クラブ会長）

「反対した人が敵にならない、というのがいちばんいいところ。意見が違ってやり合ったとしても、一度決まったら協力してくれる。担当者がどんなに大変かを知っているから、皆で協力せなあかん、ということに自然になる」（ライオン後藤）

今治くるしまライオンズクラブの理事会では、議論が沸騰して、端から見ればけんかと思われることもあるのだと言う。

1994年から8回にわたって開催した「くるしまロックフェスティバル」も、当初は相当に激しい意見のぶつかり合いがあった。青少年育成のアクティビティの対象が優等生ばかりでは、おかしいじゃないか……。当時の会長ライオン中村はそんな疑問から、担当の宇野保夫第三副会長に相談し、ロックフェスティバル開催を思い立った。当時、今治市では高校生のバンド活動が認められていなかった。一部の高校生たちは学校に隠れてコンサートを開き、当たり前のように喫煙や飲酒もした。その多くが、見るからに不良と呼ばれるような高校生たちだった。彼らに演奏の場を与え、ルールを守りながら自分たちのやりたいことを実現させてやりたい。そんな彼らを周囲の人たちに理解し、認めてもらいたい。

この提案に対して、理事会では反対意見が大勢を占めた。「そんなこと、やれるもんかい」という声。確かに、リスクは大きかった。協力を打診した市内の高校にはことごとく断られ、問題は山積していた。

しかしライオン中村には、このアクティビティを成功させることが出来れば、

子どもと作る世界の料理コンテスト

今年2月5日、今治市中央住民センターで開催したコンテスト。市内の小中学生約40人が参加し、アメリカ、カナダ、スリランカ、ベトナム、中国、韓国の6カ国の外国人をコーチに、各国料理や創作料理に挑戦した。子どもたちは6班に分かれて、それぞれのコーチがレシピを用意。片言の日本語と英語にジェスチャーを交えてコミュニケーションを取りながら、買い出し、調理に悪戦苦闘。優秀賞、デザイン賞、環境賞、節約賞、チームワーク賞、スピーディー賞の6部門で表彰した。

このアクティビティにはエクステンションしたばかりの今治サーチング・ライオンズクラブも協力。

クラブの土台が固まるはずだ、という思いがあった。ライオン宇野と共に、もしも失敗したら退会もやむなし、と腹を据えた。

「中村さんと、宇野さんの熱意はものすごくて、それに引っ張られるように、だんだんやろうという気持ちに変化していった。いざ、やると決まったら一つになれた」（ライオン志賀）

「終わった後にやってよかったなあと思う。感動がある。それによって、クラブの雰囲気がよくなっていく。そうやってクラブが固まっていった」（ライオン越智）

そう話す越智会長は、第4回のフェスティバルで青少年健全育成委員長として指揮をとった。司会を務めたライオン松本宏平には、強く印象に残った一幕がある。

「歴代の委員長は全員、フェスティバルが終わると涙を流した。そんなアクティビティは他にはない。越智会長が委員長の時、最後に『これからもオジサンたちを仲間だと思ってほしい。何か困ったことがあれば何でも相談してください』と、バンドのメンバー一人ひとりに名刺を手渡した。その時の感動が今でも忘れられない」

● 今治くるしまライオンズクラブは昨年11月、愛媛県内では二つ目の女性クラブ、今治サーチング・ライオンズクラブのエクステンションに成功した。アクティビティと同様に、クラブ一丸となってエクステンションに取り組んで、会員27人で新クラブを発足させた。

「我々のクラブがあるのもスポンサー・クラブのお陰。自分たちも何とかしてエクステンションをしたかった。当時のエクステンション委員の皆さんの熱意とご苦労を思い、途中くじけそうになった時にも励まされた」と、ガイディング・ライオンのライオン中村。

新たに誕生したクラブも、スポンサー・クラブの熱い思いを受け継いで、たくましく成長していくに違いない。

● この日の取材は予定の1時間を超え、更に夕食の席へ移っても話が尽きなかった。

「このところ、ちょっと話し合いが足りなかったんじゃなかろうか」。クラブのこと、アクティビティのこと、ますます熱気を帯びながら、今治の熱いライオンたちの議論は夜が更けるまで続いた。

くるしまロックフェスティバル

1994年から8年間、8回にわたり東予地区の高校生たちと共に開催した真夏のロックフェスティバル。数々の感動を残した、今治くるしまライオンズクラブの記念碑的な事業。出演者とのミーティングから、予選、練習会、そして決勝大会まで、チケットの販売や準備作業にも高校生とメンバーが協力して取り組み、作り上げた。生き生きと演奏に打ち込む高校生たちの姿は、観客の、メンバーの胸を打った。最初はあいさつも出来なかった出場者たちが、フェスティバル後は向こうから声を掛けてくるようになり、来場した父兄からも励ましのメッセージが寄せられた。高校生たちはもちろん、県や市の教育委員会からも高い評価を受けて継続したが、次第に高校生バンドの活動が認められるようになり、役割を終えたと判断。第8回大会を最後に終了した。

pick up
ピックアップ

# 両目は生きて闇に光を差し込む
## アイバンクがつなぐドナーとレシピエントのアイの絆

「角膜移植に関する法律」が日本で制定されたのは１９５８年。日本ライオンズはこの最初の年から献眼登録運動を開始し、63年の最初のアイバンク設立から今日まで、アイバンク事業に深く携わってきた。

しかし、社会になかなか浸透しないばかりか、日本ライオンズの内部ですら、いまだ活動内容が十分に理解されているとは言い難く、４千〜５千人の患者さんが移植を待って３〜４年を過ごさなくてはならない状態が続いている。ライオンズ・メンバーでもある、関東地区の３人のアイバンク理事長に話を聞き、打開策を探る。

■座談会出席者
奥田俊亮（茨城県アイバンク理事長／元地区ガバナー／茨城県・水戸西ライオンズクラブ）
井上幸一（栃木県アイバンク理事長／副地区ガバナー／栃木県・黒磯ライオンズクラブ）
吉濱和夫（群馬県アイバンク理事長／元地区ガバナー／群馬県・高崎ライオンズクラブ）
■司会
笹本瞭（ライオン誌日本語版委員／㈶日本アイバンク協会評議員／元地区ガバナー／千葉県・市川東ライオンズクラブ）

## アイバンクはドナーとレシピエントの架け橋

**笹本**　本日は暑い中お運び頂きお礼申し上げます。アイバンクは日本ライオンズの誇るべき事業です。その事実をもっと認識してもらう必要がある。それにはどうしたら良いか、ご提案頂きたいと思います。まずはアイバンクについて簡単にご説明頂けますか。

**吉濱**　アイバンクは角膜提供者（ドナー）となる意志のある方と移植を希望する患者さん（レシピエント）の登録を受け付け、両者の架け橋の役目をする組織です。現在全県に計54のアイバンクがありますが、そのほとんどはライオンズが主体となって組織・運営されています。

**奥田**　基本的にドナーもレシピエントも在住の都道府県のアイバンクに登録します。角膜移植までの一般的な手順をご説明致しますと、まずアイバンクにドナー逝去の連絡が入るのですが、眼球は死後6～12時間以内に摘出する必要があるので、電話は夜中でも担当者の携帯に転送されるようになっています。アイバンクでは、故人の遺志を尊重して献眼頂けるようご遺族の説得を行い、また摘出医にも連絡を入れてドナーの所まで送迎します。摘出した眼球は専用の保存容器に入れ、移植手術を行う病院に運びます。眼球摘出を行うのと移植手術を執刀するのは別の医師です。これらの送迎・搬送には安全を期してタクシーを使います。夜中だったり遠距離だったりすることもあるので、茨城県では平均5万円位。この費用はアイバンクが負担します。

**井上**　栃木県は全国的にも希な方法を取り、その成功例となっています。摘出医を二つの大学病院に限定し、同じ病院で移植手術も行って頂くというものです。アイバンクはドナー逝去の一報を受けると担当医に電話連絡を入れます。するとその医師が献眼承諾書の作成、眼球の摘出、病院への運搬、そして移植手術も行います。タクシー代はアイバンクの負担になりますが、大幅な作業の迅速化、経費削減になっています。

**吉濱**　時々誤解されている方がいらっしゃるので申し上げますと、眼球の摘出は心停止し死亡が確認されてからで大丈夫です。また、摘出した後は義眼を入れますので、お顔が変わってしまうといったことはありません。

## 気持ちを伝える事業で感動をもらう

**笹本**　人の目を頂くという特別な活動な訳ですが、心に留めていらっしゃることがありますか。

**奥田**　献眼して頂く上で大切なのは、こちらの気持ち、心からの感謝を伝えることだと思うんです。逝去の一報を受けての最初の一言、遺族に献眼頂けるか確認する時、また葬儀の時に故人の尊い行いをたたえることなど、それがこの活動をつなげていくためにも重要なポイントだと思っています。

**井上**　葬儀の際にはご遺族らの了解を得て、県知事と厚生大臣、そしてライオンズの地区ガバナーからの

感謝状をお渡しし、アイバンクと故人の尊い献眼について紹介させて頂くんですね。長くても10分と掛かりませんが、ご遺族は皆さんとても感動されますね。故人は大臣から感謝状をもらえるような行いをした。２人の人に光を与え、その目はまだ生きていると。

**吉濱**　群馬県や他の多くの県でも献眼者慰霊のために顕彰碑を建立し

ライオン吉濱和夫

て慰霊祭を行っています。ご遺族と開眼者をお招きして、お話も伺います。誰の角膜が誰に移植されたかということは一切公表されないので、当事者同士が直接交流することは出来ません。でも、それぞれの立場の方々の話を聞くことで、事業の素晴らしさを理解し、感動を分かち合うことが出来ます。

**井上**　そうした感動が人を動かす

ライオン井上幸一

んだと思います。宇都宮に住む60歳の女性の話を紹介させてください。小さい頃から悪かった目が更に悪化して、移植を申し込んだんです。でもなかなか順番が回ってこない。そんな時、だんなさんが「俺の目、半分やるよ」とまで言ってくれたんだそうです。その後移植し開眼した時は、目をくださった見知らぬ人と、同じ思いで自分を支えてくれただんなさんに心から感謝したと。でもその気持ちをどこへ示したら良いか分からなくて、自分で祭壇を作って拝んでいたそうです。最近アイバンクを知り、私に連絡をくれたんです。以来この奥さん、いろいろな席で、移植を待つ気持ちや開眼の喜び、感謝を話してくれてます。皆、涙、涙で聞き入ります。私は本当にアイバンクに携わって良かった、ライオンズはなんて素敵な団体なんだろうと、心から誇りに思うんです。こうした感動をメンバー皆に知ってほしい。

**吉濱**　そうした話は人の心に響く。献眼事業の素晴らしさが率直に伝わると思います。

## 登録者、献眼者を増やすために

**笹本**　日常生活の中では献眼やアイバンクはあまり意識に上りませんよね。一人でも多くの方に登録して頂くために、また登録された方がそれを忘れないように、どのような方法でPRされていますか。

**奥田**　茨城県は昨年度はクラブ周年記念事業としてまとまった寄付金

ライオン奥田俊亮

が頂けたので、年間を通して毎朝10秒くらい、ラジオでPR放送を流すことが出来ました。また、茨城新聞が主催しているNPOなどを対象とした基金を活用しました。これを受けての事業内容は紙面でも紹介されるんです。結果、アイバンク登録者はずいぶん増えましたよ。献眼者増加はまだこれからですが。

**吉濱**　群馬県で献眼登録者募集で成功しているのが、県内のイベントや祭りに参加してのキャンペーンなんです。人寄せのためにアートバルーンで動物などを作ってあげるのが子どもに大人気です。他にもパソコンを使って登録者のスナップ入りカレンダーを作って差し上げたりもしています。安価だし、けっこう大勢登録してくれる。お勧めです。

**奥田**　登録くださった方が亡くなられた時、アイバンクの連絡先が分からなかったりすることがあります。そこで頻繁に目に触れるように、クリア・ファイルとオリジナル・キャラクターの携帯ストラップに連絡先を印刷して、アイバンクのパンフレットと一緒に配布しています。イベントなどではPRも兼ねて、登録してくださった方以外にも配っています。

**井上**　アイバンクに登録頂いた方

には登録カードが渡されるんですが、理想を言えば国や地方自治体とも協力して、アイバンクに登録しているということを保険証に記録出来るといい。保険証を献眼登録証として併用出来れば病院で必ず確認されます。

**奥田**　アイバンクではなく㈶日本臓器移植ネットワークの活動ですが、保険証や免許証に貼るための臓器提供の意思表示シールは保健所などの公共施設や大手コンビニで入手出来ます。意思表示カードのシール版です。ただ、アイバンクの連絡先は記載されていないので、献眼するにはアイバンクに連絡する必要があることを広く知ってもらえるように啓蒙していかなくてはなりませんね。

臓器提供意思表示シールを貼った免許証

**吉濱**　群馬では「私はアイバンクに登録しています」と印刷された、保険証カードを入れるビニール・ケースを作って登録者に差し上げていますよ。

**井上**　死亡判定をした医師が意思表示カードに気づいて連絡をくれたこともありました。眼球摘出までには時間が限られてますから、こうした早い段階で連絡頂けるのはありがたいですね。

**吉濱**　うちの県では葬儀屋をやっているメンバーを集めて、葬儀の打ち合わせ段階で献眼の確認をしてくれるよう依頼したことがあります。死後かなり早い段階で遺族に接触しますから。

## アイバンクはライオンズの誇るべき事業

**笹本**　残念な現実ですが、ライオンズの物故会員でさえなかなか角膜提供に至らずに、眼球不足が続いています。

**吉濱**　研修会や3役セミナーでキャビネットが指導して、各クラブごとに献眼推進委員を任命、会員のアイバンク登録と死亡時のアイバンクへの連絡を徹底すべきだと思います。また、群馬県では2002年に発足したアイバンク認定サポーター制度を進めています。必要な知識を習得して、アイバンクの普及啓発に協力頂く制度です。

**奥田**　協力者は大勢募りたいですね。ライオンズの女性会員やライオネスも献眼推進に熱心で、講習会を開催したりしています。女性会員増加と献眼推進が相乗効果をもたらせば理想的ですね。

**井上**　単一クラブでの活動のお手本に、静岡県の小山ライオンズクラブという素晴らしいクラブがあります(本誌04年6月号参照)。栃木アイバンクでも小山町に教えを請いに行きましたが、この町では亡くなられる方の20%が献眼され、アイバンクが行うような手配をすべて会員が協力し合って行っています。

**笹本**　長野県の茅野ライオンズクラブでは物故メンバー全員が献眼されるそうですよ。町も協力的で、摘出した眼球の運搬に消防車を出してくれるんだそうです。

ライオン笹本瞭

**井上**　やれば出来るという見本ですね。アイバンクはまさに誕生から現在までライオンズの奉仕抜きにしては成り立たなかった事業です。ライオンズにとっても、活動の中心に据えるべき実績と価値があります。地区レベルでもクラブレベルでも、リーダーたちはこれを認識して指導に当たり、各会員は献眼事業について知識を増やし感動を共有することで、より一層誇りと喜びを持って推進して頂きたいと思います。

**笹本**　「相手の目を見て話せる幸せ」を一人でも多くの人にお届けしたいですね。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

ライオンズ ニュースカセット

# NEWS CASSETTE

## 北海道初上陸を果たしたライオンズクエスト

8月21、22の両日、北海道札幌市の道民活動センターで、道内初のライオンズクエスト・ワークショップが開催された。331‐A（秋庭一富地区ガバナー）、331‐B（山崎義正地区ガバナー）両地区によるLCIF四大交付金（10万ドル）事業によるもので、道内の小・中・高校の教員28人とライオンズ会員4人が、プログラムの概要を学んだ。道内へのライオンズクエスト導入の推進役を果たしてきた秋庭ガバナーは「今回は大成功に終わりましたが、これからが大切。今後、各クラブにライオンズクエストを知って頂くためのセミナーを開催したり、第2回以降のワークショップ、モデル校の決定など、やるべきことが山積みです。しかし、プログラム導入が、現在の青少年教育にとって必須だと確信していますので、道内での普及活動に全力で取り組みたいと思っています」と決意を語っていた。

## 2005年度末集計による世界の会員数の動向

2006年6月末の国際協会集計によると、世界のクラブ数は4万5045、会員数130万1460人で、期首から2万969人のマイナスとなった。会員数上位5カ国は、アメリカ（39万7447人／純減1万1610）、インド（13万5827人／純減881）、日本（11万9092人／純減3296）、韓国（7万9779人／純増1798）、イタリア（5万1557人／純減471）。七つの会則地域すべてで減少となったが、3位の韓国と6位ドイツ（4万5514人／純増1055）が2年連続で千人を超える純増を果たしている。また、マヘンドラ・アマラスリヤ第1副会長の地元スリランカ（9629人／純増1106）の成長が著しい。05年度の世界と日本の会員数集計など統計資料は本誌12月号に詳しく掲載する予定。

## CSFⅡモデルクラブ制度の延長

視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）では、プログラムの意義を理解し、会員1人当たり平均500ドルの献金を誓約したクラブをモデルクラブとして表彰している。キャン

ペーンの成功を先導するクラブとして、当初、昨年12月末を期限に募集されたが、その後も制度延長の要請が多数寄せられたことから、キャンペーン最終年の2007年度末まで延長することを決定した。1年目の05年度に申請したクラブには「道を先導する(Leading the Way)」、06年度申請のクラブには「挑戦に応じて(Accepting the Challenge)」、07年度申請のクラブには「成功を確かなものに(Ensuring Success)」の名称のパッチが贈られる。

## 視力ファーストで700万回目の白内障手術

LCIFが8月15日に発信したニュースによると、視力ファースト・プログラムの資金提供による700万回目の白内障手術が、インド・マハラストラ州のライオンズNBA眼科病院で行われた。手術を受けた農夫のバサント・パンハリナス・ホールさん(60)は、無料手術の実施を知らせる広告車のアナウンスを聞き病院に足を運んだ。「私の人生はより良いものになりました。ライオンズに感謝しています」とホールさん。

## 2005-06年度日本ライオンズ連絡事務所決算公告

### 貸借対照表

単位：円

日本ライオンズ連絡事務所
2006年6月30日

| 資産の部 | | 負債及び正味財産の部 | |
|---|---|---|---|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| Ⅰ　資産の部 | | Ⅱ　負債の部 | |
| 1　流動資産 | 87,689,191 | 1　流動負債 | 1,324,100 |
| 現金 | 59,413 | 預り金 | 161,800 |
| 銀行預金 | 79,103,596 | 未払金 | 820,000 |
| 郵便貯金·振替 | 8,121,597 | 未払消費税 | 342,300 |
| 頒布品 | 38,985 | | |
| 未収入金 | 165,600 | | |
| 仮払金 | 200,000 | | |
| 2　固定資産 | 61,101,404 | Ⅲ　正味財産の部 | |
| 基本財産 | | 正味財産 | 147,466,495 |
| 銀行預金 | 50,000,000 | (うち基本金) | 50,000,000 |
| 基本財産合計 | 50,000,000 | (うち当期正味財産増加額) | 6,654,570 |
| その他の固定資産 | | | |
| 敷金 | 5,266,080 | | |
| 保証金 | 50,000 | | |
| 電気設備 | 1,540,000 | | |
| 什器備品 | 4,556,200 | | |
| OA機器類 | 866,534 | | |
| 減価償却累計額 | -1,177,410 | | |
| その他の固定資産合計 | 11,101,404 | | |
| 資産合計 | 148,790,595 | 負債及び正味財産合計 | 148,790,595 |

### 収支計算書

単位：円

自2005年7月１日
至2006年6月30日

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 執行割合 (%) |
|---|---|---|---|---|
| 収入の部 | | | | |
| 会費収入 | 42,840,000 | 44,085,600 | △ 1,245,600 | 102.9 |
| 受取利息収入 | 5,000 | 5,295 | △ 295 | 105.9 |
| 頒布品差額収入 | 0 | 1,537,533 | △ 1,537,533 | − |
| 雑収入 | 0 | 0 | 0 | − |
| CSFⅡ受け入れ収入 | 2,285,712 | 2,285,724 | △ 12 | 100.0 |
| 基本財産利息収入 | 10,000 | 12,000 | △ 2,000 | 120.0 |
| (A) 当期収入合計 | 45,140,712 | 47,926,152 | △ 2,785,440 | 106.2 |
| 前年度繰越収支差額 | 93,966,893 | 93,966,893 | 0 | 100.0 |
| (B) 収入合計 | 139,107,605 | 141,893,045 | △ 2,785,440 | 102.0 |
| 支出の部 | | | | |
| 議長連絡会議費 | 300,000 | 1,192,914 | △ 892,914 | 397.6 |
| 委員長連絡会議費 | 200,000 | 580,116 | △ 380,116 | 290.1 |
| 管理委員会会議費旅費 | 3,000,000 | 3,377,104 | △ 377,104 | 112.6 |
| 国際大会·アジアフォーラム関係費 | 1,200,000 | 675,043 | 524,957 | 56.3 |
| 人件費 | 17,000,000 | 15,475,212 | 1,524,788 | 91.0 |
| 福利厚生費 | 2,500,000 | 2,833,124 | △ 333,124 | 113.3 |
| 印刷費 | 1,500,000 | 971,342 | 528,658 | 64.8 |
| 通信費 | 2,000,000 | 1,816,324 | 183,676 | 90.8 |
| 旅費交通費 | 1,000,000 | 677,493 | 322,507 | 67.7 |
| 借室料水道光熱費 | 9,000,000 | 8,890,727 | 109,273 | 98.8 |
| リース・レンタル料 | 1,000,000 | 904,695 | 95,305 | 90.5 |
| 事務用品費 | 450,000 | 188,737 | 261,263 | 41.9 |
| 図書費 | 100,000 | 40,572 | 59,428 | 40.6 |
| 顧問料 | 960,000 | 1,210,000 | △ 250,000 | 126.0 |
| 支払手数料 | 150,000 | 161,463 | △ 11,463 | 107.6 |
| 雑費 | 225,000 | 87,875 | 137,125 | 39.1 |
| 租税公課 | 1,200,000 | 1,445,213 | △ 245,213 | 120.4 |
| 基金繰入引当預金支出 | 0 | 15,000,000 | △ 15,000,000 | − |
| 予備費 | 2,612,084 | 0 | 2,612,084 | 0.0 |
| (C) 当期支出合計 | 44,397,084 | 55,527,954 | △ 11,130,870 | 125.1 |
| (A)−(C)当期収支差額 | 743,628 | △ 7,601,802 | 8,345,430 | |
| (B)−(C)次期繰越収支差額 | 94,710,521 | 86,365,091 | 8,345,430 | |

(注1) CSFⅡとは、Campaign SightFirst Ⅱ（視力ファーストⅡキャンペーン）の略。

(注2) 前年度繰越収支差額93,533,111円に前年度減価償却費433,782円を戻し入れ、93,966,893円に修正した。減価償却費を勘定科目から削除（2004-05年度固定資産取得支出を経費として計上済みのため、正味財産増減計算書に償却額を計上）。

(注3) 科目名「積立金繰入」を「基金繰入引当預金支出」に変更し、2004-05年度取り崩した基本財産を組み戻した。

## 2005-06年度ライオン誌日本語版事務所決算公告

**貸借対照表** 単位：円

ライオン誌日本語版事務所
2006年6月30日

| 資産の部 | 294,731,139 | 負債の部 | 42,967,661 |
|---|---|---|---|
| 流動資産 | (290,379,481) | 流動負債 | (26,678,728) |
| 現金 | 15,485 | 未払金 | 24,930,956 |
| 普通預金 | 206,503,903 | 前受金 | 818,125 |
| 定期預金 | 30,000,000 | 預り金 | 929,647 |
| 郵便振替貯金 | 43,618,825 | | |
| 未収入金 | 2,265,796 | | |
| 貯蔵品 | 144,297 | | |
| 頒布品 | 2,180,606 | | |
| 前渡金 | 67,200 | 固定負債 | (16,288,933) |
| 前払費用 | 2,303,242 | 退職給与引当金 | 16,288,933 |
| 立替金 | 1,828,731 | | |
| 仮払金 | 1,451,396 | | |
| | | 正味財産の部 | 251,763,478 |
| 固定資産 | (4,351,658) | 基金 | 130,000,000 |
| 有形固定資産 | (1,031,815) | 資料整備準備金 | 15,000,000 |
| 什器備品 | 1,031,815 | 事務改善等積立金 | 27,183,889 |
| 無形固定資産 | (1,491,343) | 為替差損準備金 | 44,039,956 |
| 電話加入権 | 239,200 | 未処分収支差額金 | |
| コンピュータ・ソフトウエア | 1,252,143 | 前期繰越収支差額金 | 18,039,472 |
| その他の固定資産 | (1,828,500) | 当期収支差額金 | 17,500,161　35,539,633 |
| 差入保証金 | 1,828,500 | | |
| 合計 | 294,731,139 | 合計 | 294,731,139 |

**収支計算書** 単位：円

自2005年7月1日
至2006年6月30日

**収入の部**

| 科目（項／目） | 予算額 | 執行額 | 差額 |
|---|---|---|---|
| 購読料収入 | 151,290,000 | 159,554,990 | -8,264,990 |
| 　国際会費還付金 | 77,490,000 | 85,633,890 | -8,143,890 |
| 　特別負担金 | 73,800,000 | 73,921,100 | -121,100 |
| 広告料収入 | 20,400,000 | 20,623,050 | -223,050 |
| その他収入 | 5,007,000 | 6,274,366 | -1,267,366 |
| 　頒布品収支差額 | 2,500,000 | 3,562,752 | -1,062,752 |
| 　収入利息 | 7,000 | 14,124 | -7,124 |
| 　雑収入 | 2,500,000 | 2,697,490 | -197,490 |
| 前期繰越収支差額金 | 18,039,472 | 18,039,472 | 0 |
| 合計 | 194,736,472 | 204,491,878 | -9,755,406 |

**支出の部**

| 科目（項／目） | 予算額 | 執行額 | 差額 |
|---|---|---|---|
| 直接出版費 | 95,800,000 | 94,827,902 | 972,098 |
| 　印刷費 | 60,000,000 | 60,140,960 | -140,960 |
| 　発送事務費 | 19,200,000 | 18,524,044 | 675,956 |
| 　旅費交通費 | 5,300,000 | 4,294,076 | 1,005,924 |
| 　取材費 | 1,200,000 | 959,871 | 240,129 |
| 　原稿料 | 10,000,000 | 10,858,840 | -858,840 |
| 　広告関係諸費 | 50,000 | 43,174 | 6,826 |
| 　雑費 | 50,000 | 6,937 | 43,063 |
| 委員会費 | 7,000,000 | 6,323,027 | 676,973 |
| 　旅費交通費 | 6,700,000 | 5,995,745 | 704,255 |
| 　会議費 | 100,000 | 133,206 | -33,206 |
| 　雑費 | 200,000 | 194,076 | 5,924 |
| 事務費 | 70,087,000 | 67,801,316 | 2,285,684 |
| 　人件費 | 39,060,000 | 39,238,405 | -178,405 |
| 　福利厚生費 | 6,700,000 | 5,528,515 | 1,171,485 |
| 　旅費交通費 | 1,810,000 | 1,623,700 | 186,300 |
| 　通信費 | 2,220,000 | 1,827,129 | 392,871 |
| 　備品費 | 300,000 | 324,355 | -24,355 |
| 　事務用品費 | 1,570,000 | 1,557,867 | 12,133 |
| 　図書費 | 50,000 | 25,012 | 24,988 |
| 　消耗品費 | 50,000 | 35,939 | 14,061 |
| 　顧問料 | 851,000 | 850,500 | 500 |
| 　支払手数料 | 120,000 | 143,155 | -23,155 |
| 　保守・修繕費 | 1,690,000 | 1,957,800 | -267,800 |
| 　借室料 | 9,216,000 | 9,217,845 | -1,845 |
| 　水道光熱料 | 480,000 | 531,007 | -51,007 |
| 　租税公課 | 1,000,000 | 557,423 | 442,577 |
| 　減価償却費 | 1,110,000 | 708,052 | 401,948 |
| 　退職給与引当金繰入額 | 1,400,000 | 1,211,588 | 188,412 |
| 　東法連退職積立金 | 1,260,000 | 1,270,000 | -10,000 |
| 　雑費 | 1,200,000 | 1,081,775 | 118,225 |
| 　固定資産廃棄損 | | 111,249 | -111,249 |
| 予備費 | 21,849,472 | | 21,849,472 |
| 前期繰越収支差額金 | | 18,039,472 | -35,539,633 |
| 当期収支差額金 | | 17,500,161 | |
| 合計 | 194,736,472 | 204,491,878 | -9,755,406 |

## 全日本レベルの薬物乱用防止委員会設置

去る8月3日に開催された第2回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議において、全日本レベルでの薬物乱用防止委員会を設置することが決定した。中村保彦議長(330複合)と鈴木正二議長(333複合)の共同提案が、審議、承認されたもので、準地区レベルで㈶麻薬・覚せい剤乱用防止センターと共同し推進されている「薬物乱用防止教育認定講師養成制度」に対して、内閣府、厚生労働省、警察庁、文部科学省の後援を受けられることになったのに伴い、全国レベルでの対応を協議することが目的。会議では、薬物乱用防止委員会の委員長に鈴木正二議長、副委員長にその他の各複合地区議長、委員には各複合地区の当該委員長が就くことを決めた。今後は薬物乱用防止全国大会の開催などについて協議する。

## 新結成・解散・クラブ名称変更

■新結成クラブ

茅ケ崎オーシャン▼結成順位/3631▼7月30日結成▼神戸幸男会長▼事務局/神奈川県茅ケ崎市元町5・3　エスポワールミワビル2階　㈱資産相談センター(〒253・0043)TEL 0467・84・0559▼スポンサー/茅ケ崎グリーン

■解散クラブ

神奈川県・藤野相模湖/宮城県・仙台西/福島県・みちのく鹿島/福島県・会津若松中央/静岡県・南伊豆/徳島県・丹生谷

■クラブ名称変更

新潟県・新井→妙高
石川県・柳田→能登
兵庫県・社→加東

### 会議録　8月　主な議題だけをまとめました

**複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**

第2回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議は8月3日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①国際理事との懇談、②薬物乱用防止に関する330、333複合地区共同提案、③東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム誘致に関する337複合地区提案、④各委員会・連絡会議報告、⑤その他について協議した。

②は全日本レベルでの薬物乱用防止委員会を設置し、鈴木正二333複合地区議長が担当委員長を務めることなどを決定。

③は次回の日本開催フォーラムを337複合地区でホストしたいとの提案あり。既にホスト希望を表明している336複合地区との間で調整するよう求めた。

**日本ライオンズ連絡事務所管理委員会**

2005・06年度第7回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会は8月7日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①05・06年度会計報告、②8月8日会計監査立ち会い、③06年度収支予算書試案、④就業規則の確認、⑤廣瀬恒彦委員(330)からの提案、⑥報告事項について協議した。

⑤は連絡事務所管理費及び顧問料について。

**複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**

臨時複合地区ガバナー協議会議長連絡会議は8月8日、パレスビルディングで開催され、①ジミー・ロス国際会長公式訪問、②LCIFセミナー、③その他、について協議した。

①は公式訪問日程は9月7日(対象:330〜333各複合地区)、9日(336、337)、10日(334、335)。

②はセミナーのため、アショク・メータLCIF理事長が10月10日〜13日に来日予定。

## 訃報

ライオン ジェームス・M・ファウラー(アメリカ・アーカンソー州リトルロック・ファウンダーズ)

1983年にハワイ州ホノルルで開催された第66回国際大会で、83年度国際会長に就任した。

ライオン 今泉清(宮城県・仙台)

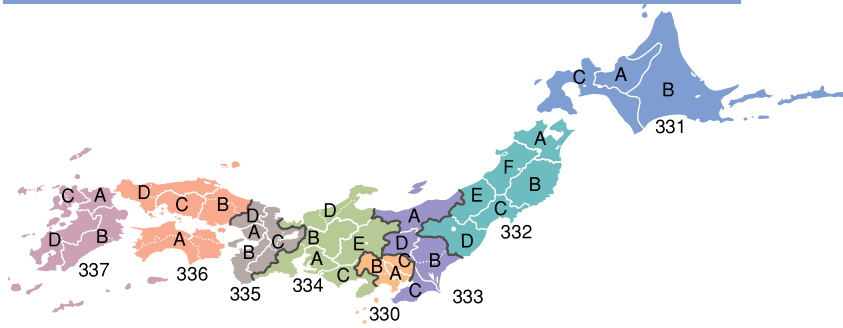
8月25日死去、103歳。57年チャーター・メンバー。63年度302・E4地区ガバナー。

# 日本ライオンズクラブ
# クラブ数・会員数

## 世界のライオンズ

| 2006.6.30.国際協会集計 | ■クラブ数 | ■会員数 | 期首からの増減 |
|---|---|---|---|
| ライオンズ国または領域　200 | 45,045 | 1,301,457 | △ 20,969 |

## 日本のライオンズ

| 2006.7.31. 各キャビネット事務局集計 | | ■クラブ数 | 期首からの増減 | ■会員数 | 期首からの増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| 330-A | 東京 | 207 | 0 | 5,543 | 44 |
| 330-B | 神奈川・山梨・東京 | 191 | 0 | 5,726 | 32 |
| 330-C | 埼玉 | 106 | 0 | 2,930 | 11 |
| 330 | 計 | 504 | 0 | 14,199 | 87 |
| 331-A | 北海道（道央） | 77 | 0 | 2,847 | 12 |
| 331-B | 北海道（道北・道東） | 98 | 0 | 3,071 | 8 |
| 331-C | 北海道（道南） | 62 | 0 | 2,170 | 13 |
| 331 | 計 | 237 | 0 | 8,088 | 33 |
| 332-A | 青森 | 69 | 0 | 2,137 | 17 |
| 332-B | 岩手 | 57 | 0 | 1,897 | 14 |
| 332-C | 宮城 | 82 | 0 | 1,839 | 8 |
| 332-D | 福島 | 79 | 0 | 2,290 | 8 |
| 332-E | 山形 | 56 | 0 | 2,026 | 17 |
| 332-F | 秋田 | 56 | 0 | 1,597 | 0 |
| 332 | 計 | 399 | 0 | 11,786 | 64 |
| 333-A | 新潟 | 78 | 0 | 2,977 | 6 |
| 333-B | 茨城・栃木 | 137 | 0 | 4,328 | 5 |
| 333-C | 千葉 | 128 | 0 | 3,584 | 1 |
| 333-D | 群馬 | 56 | △ 1 | 2,189 | 2 |
| 333 | 計 | 399 | △ 1 | 13,078 | 14 |
| 334-A | 愛知 | 118 | 0 | 6,016 | 51 |
| 334-B | 岐阜・三重 | 88 | 0 | 4,149 | 48 |
| 334-C | 静岡 | 84 | 0 | 3,561 | 15 |
| 334-D | 富山・石川・福井 | 98 | 0 | 4,397 | 43 |
| 334-E | 長野 | 55 | 0 | 2,386 | 17 |
| 334 | 計 | 443 | 0 | 20,509 | 174 |
| 335-A | 兵庫（東） | 110 | 0 | 3,071 | 21 |
| 335-B | 大阪・和歌山 | 203 | 0 | 7,225 | 17 |
| 335-C | 滋賀・京都・奈良 | 123 | 0 | 4,765 | 23 |
| 335-D | 兵庫（西） | 70 | 0 | 2,445 | 9 |
| 335 | 計 | 506 | 0 | 17,506 | 70 |
| 336-A | 徳島・高知・香川・愛媛 | 155 | △ 1 | 6,521 | 21 |
| 336-B | 鳥取・岡山 | 102 | 0 | 3,905 | 0 |
| 336-C | 広島 | 106 | 0 | 4,148 | 22 |
| 336-D | 島根・山口 | 109 | 0 | 3,846 | △ 5 |
| 336 | 計 | 472 | △ 1 | 18,420 | 38 |
| 337-A | 福岡・長崎 | 119 | 0 | 5,085 | 55 |
| 337-B | 大分・宮崎 | 90 | 0 | 2,955 | 10 |
| 337-C | 佐賀・長崎 | 84 | 0 | 3,349 | 13 |
| 337-D | 熊本・鹿児島・沖縄 | 145 | 0 | 4,682 | 19 |
| 337 | 計 | 438 | 0 | 16,071 | 97 |
| 総計 | | 3,398 | △ 2 | 119,657 | 577 |
| 世界のライオンズの | | 7.5% | | 9.2% | |

SCENE

# 天神さんのお供は、100隻の大船団。真夏の大川を彩る船渡御神事。

大阪天満ライオンズクラブ
■文／砂山幹博　写真／田中勝明

（右）元禄時代に端を発する「御迎人形」を唯一飾り付けているのが、ライオンズの奉仕講船。羽柴秀吉の御迎人形は、25周年を記念して製作されたもの
（左）揃いの衣裳で陸渡御に臨むメンバー。祭りにかける意気込みは相当なもので、クラブ三役とは別に天神祭の三役も置かれている

「日本に来ていちばん印象に残ったことは何かとYE生に聞くと、参加した子ならばほとんどがこの船渡御（ふなとぎょ）を挙げます」と、あるライオンは言う。船渡御は、百万人もの人出で賑わう日本三大祭りの一つにして、大阪の夏の風物詩・天神祭の神事である。

7月25日は年に一度、天神さんが氏地を巡見するという日。この日、天神さんをお迎えするために、氏子は天神祭最大の見どころである陸渡御（りくとぎょ）と船渡御の行列を組む。絢爛豪華な時代衣装を身にまとった3千人もの行列が神輿と共に天満宮界隈を練り歩く陸渡御の後、御神体を乗せた奉安船を守るかのように100隻を超える大船団が大川を上り下りする船渡御が執り行われる。夜空には奉納花火が打ち上げられ、川に停泊した船の上では篝火がたかれ、優雅な神楽や囃子が奏でられる。この華やかなイベントを一目見ようと、河岸や橋の上は見物客であふれ返る。

この船渡御の日にYE生を招待して、楽しい日本の思い出を作ってもらうことが、大阪天満ライオンズクラブ（木下博之会長／32人）最大のアクティビティだ。午後6時、大阪天満ライオンズクラブ奉仕講船に、例年通り50人近いYE生が乗船した。この他に通訳やホームステイ先の家族、ゾーン内の他クラブのメンバーなどが加わり、

あっという間に200人近くの賑やかな船上となった。そもそも、天神祭は大阪天満宮の氏子による祭事。祭に参加するためには「講」に所属していなければならないのだが、大阪天満ライオンズクラブはクラブそのものが講として認められている珍しいケース。船上から天神祭を楽しむことは、大阪の人でも滅多に体験することが出来ないという。

奉仕講船には司会進行役として、プロの漫才師1人と天神祭のボランティアガイド・天満天神御伽衆（おとぎしゅう）も乗り込み、面白おかしく天神祭の楽しみ方を披露してくれた。3時間にも及ぶ船旅だったが、おかげで皆楽しく過ごすことが出来たようだ。そんな中、YE生の心をとらえたのが、天神祭に欠かせない所作の一つ「大阪じめ」だ。船渡御では、船同士がすれ違うたびに大阪じめであいさつを交わすのが決まり事。司会者がすれ違う船に呼び掛ける。「打ちまーしょ」手拍子パンパン「もひとつせえ」パンパン「祝おうて三度」パパン、パン。祭以外でも、証券取引や経済会合などで大阪じめが行われているという。掛け声と合いの手がよほど気に入ったのか、YE生自ら大阪じめのコールをしたいと言い出す場面も。YE生たちにとっては、帰国直前最後の大イベント。滞在中のさまざまな思い出と共に、天神祭の活気を忘れることはないだろう。

# 福岡県西方沖地震における ライオンズの被災者支援

●337-A地区●

緊急援助金：10,000ドル　一般援助交付金：705,000ドル

## 日本で地震のない場所はない

日本は地震大国だ。世界で発生する地震の10~15%が日本に集中し、特にマグニチュード6以上となると20%にも達するという。

しかし、2005年3月20日午前10時50分、マグニチュード7の揺れに襲われた福岡湾北西沖は、日本でも「大地震の空白地帯」と言われていた地域だった。

「福岡県西方沖地震」と名付けられたこの地震は九州の複数県に被害をもたらし、特に福岡市では震度6を記録した。震度6クラスの地震が政令指定都市で発生するのは阪神・淡路大震災以来10年ぶり。

市の中心部ではビルの窓ガラスが割れて道路に降り注ぎ、埋め立て地は液状化するなど、改めて大都市における大地震の危険を目の当たりにすることになった。

が、より震源地に近く博多湾の入り口に位置する玄界島は更に大きな被害を受けた。

## 不安の中、島を離れる

島の道路は分断され、石垣は崩れ、家は傾いた。全島避難が発令され、島民はほとんど着のみ着のままのような状態で定期船に乗り島を離れた。船はピストン輸送で人々を本土に運んだ。

もとより地震の少ない地域にある島である。地震対策や人々の心構えも十分ではなかったろう。突然島を襲った、これまでに経験したことのない激震に対する恐怖はいかばかりか。

こうした混乱の中でも一人の死者も船への「積み残し」も出なかったのは、玄海島が周囲わずか4・4キロという小さな島で、約700人が皆家族のような深いつながりの中で生活していたからかもしれない。また、男たちの多くが出漁していて留守の中、避難や救護の中心となったのは島を守る女たちだったという。島民たちの絆が、この後の避難所での不便な生活を乗り切るための大きな支柱となっただろうことは想像に難くない。

ライオンズも被災者の支えとなるために努力を惜しまなかった。榎本巳之助地区ガバナー（当時）を始め05年度337・A地区キャビネット役員らが、玄海島島民らが避難している福岡市内の高校の体育館を最初に訪れたのは地震発生から2日目。まだ繰り返し大小の余震に襲われ、人々は揺れに対する直接的な恐怖と同時に「家は大丈夫だろうか。船は大丈夫だろうか」という心配、そして不便な生活による疲労の中にいた。

残念ながら、平穏な日常を今ここに取り戻してあげることは出来ない。せめて避難生活の苦痛を少しでも和らげたい。3月末とはいえ真冬並みに冷え込む日もある。ガランと広い体育館ではなおさらだ。風邪や

青いビニールシートで覆われた玄界島の被災家屋と漁船が停泊したままの漁港（2005年4月15日）
写真提供：共同通信社
No.050419062

インフルエンザの流行も心配だ。337・A地区は、災害直後の救援活動に対して拠出されるLCIF緊急援助金1万ドル（106万3900円）を申請。交付金で300枚の毛布を購入し被災者に配布した。

## 復興に向けた後押し

4月になった。人々は徐々に避難所での生活を組み立て始めていた。新学期、子どもたちは避難所近くの学校に通い始めた。玄界島には信号がなかったので、交通量の多い市内中心部にある簀子（すのこ）小学校に通う子は、安全に登下校出来るように予行練習もした。

4月末になるとようやく島から漁に出る船も出てきた。地震が起きた3月から6月まではタイとハマチ漁の最盛期だ。年間の水揚げの3分の2以上を稼ぎ出す。もちろん今年は例年通りの水揚げは望めない。「それでも海に出ることでやっと地震から解放された気がする」と島の漁師は言った。

地元のクラブも、復興に向けて力強く歩み始めた島民たちにエールを送った。福岡中央ライオンズクラブは5月、仮設住宅を訪れ、得意のそば打ちボランティアで300人分を振る舞い、また魔よけ・厄よけの祈りを込めて獅子舞を披露した。「がんばれ、がんばろう。応援しているよ」。ライオンたちによる迫力ある太鼓と軽快な獅子舞に大きな拍手が起こった。

地区キャビネットもまた、緊急支援から長期的な支援に焦点を移していた。玄界島の被害状況も徐々に明らかになってきた。家屋の損害は半壊以上が2割、一部破損を含めると7割を超えた。道路の寸断、ライフラインの破損。被災者たちそれぞれにたくさんのものを失っている。

人々が最も望むものはなんだろう。出来る限り効果的で価値のある支援は？

全国のライオンズから寄せられた義援金は、最終的には337・A地区内の118クラブから計808万9300円、それ以外のクラブから1820万9443円になっていた。

そんな頃、糸島ライオンズクラブを始めいくつかのクラブから「玄界島の小学校再建を支援したい」という話がキャビネットに持ち込まれた。玄界小学校は、校舎が老朽化していたため、被害が大きかった。

「更にLCIF交付金も申請して、子どもたちが1日も早く島で学校に通うために役立てよう」

337・A地区は支援方向を定めた。

そして今、小学校の建設は着々と進む。島民の半数も島に戻った。

「小学校が再建されれば一安心です。あそこは高台だし基盤もしっかりしているから避難所にもなる」

と、島の人は言う。子どもたちのためだけのものではない。島のすべての人々の心のよりどころとなる小学校は、07年春に完成する。

こころのチキンスープ●ライオンズ編

# エバとビーバー

構成／青山研

和合はささやかな富を増し、不和は最大の富をつぶす。

——マルクス・アグリッパ——

いつの頃からだったでしょうか。静岡県・三カ日ライオンズクラブの小野博義ライオンは、毎晩妻の母「ビーバー」のベッドまで足を運び、掛け蒲団を直してあげています。気づいた時には、お母さんが小さくつぶやくように「ア、リ、ガ、トウ」と応えてくれます。

小野夫妻が互いの両親と同居を始めたのは、6年ほど前のことでした。ライオン小野の母は84歳、小野夫人の母は79歳。それまで夫妻の母はそれぞれ独りで暮らしていました。「一緒に暮らそうよ」という小野夫妻の説得を受け入れて、老母2人と夫妻の同居の生活が始まりました。

「ネエ。2人をどう呼ぼうか」

言い出したのは小野夫人でした。名前を呼ぶわけにはいかないし、だからといって「お母さん」では、どちらのお母さんのことを言っているのか、分からなくなってしまいます。夫人が言いました。

「あなたのお母さんがAばあさんで、エバ。私の母はBばあさんでビーバーというのはどうかなあ」

エバにビーバーなんて、ちょっとしゃれていて、可愛らしくて、何だか西洋の童話の主人公のようです。早速その日から、エバとビーバーが2人のお母さんの秘密の愛称になりました。

夫妻は例えばこんなふうに使っていました。

「今日はエバの友達が訪ねてきて、ビーバーもお仲間に入って話し込んでいたわよ」

夫妻の間だけの秘密でした。

2人の母は、性格が全く違う方たちでしたが、夫妻の気遣いもあってか仲良くやっていました。それをまた、夫妻も見習いました。

よく晴れた朝、夫人はエバのベッドの掃除をしながら、

「今日は天気が良いから、お布団干しましょうね」

と声を掛けます。

イラスト／吉田悦子

小野（ライオン）もすかさずビーバーに呼び掛けます。

「ちょっと外に出てみませんか。ちょうどクレマチスが咲いてますよ」

気がついたら、夫人がエバに優しくしていると、小野（ライオン）もビーバーに何かして上げなくては、と思うようになっていました。何だか親切のし合いっこのようでしたが、それがいつしか、小野家の習慣のようになっていました。

エバは夫妻と同居する前から人工透析に通っていました。6年にもなります。同居の日から間もなく、通院の日が1日おきになりました。病院に行く日は、夫人が車にエバを乗せて出かけます。ビーバーが足の不自由なエバをかばいながら手伝い、玄関先まで送って励まし、「気をつけてね、お大事にね」と出発を見守ります。透析は7時間も続きます。半日掛かりでエバが帰ってくると、ビーバーは「お帰りなさい。大変でしたね。疲れたでしょう。負けずにね、頑張ってね」と迎えてくれます。

ビーバーが亡夫の墓参りに出掛ける日には、歩行困難なエバが玄関先まで送って出ます。親切のし合いっこは、夫妻から2人の母へ、そして母たちから夫妻へ、行ったり来たりです。

老いた人々が、独りで暮らすことほど寂しいことはないと言われていますが、エバとビーバーが暮らす小野家には、1日中会話が飛び交って、寂しさなど影も見せません。そこには、親と暮らすことを大切にしてきた昔ながらの日本の暮らしがありました。

「一体、こんな暮らし、いつから始まったんだっけ。母たちの呼び方を考え出したのは妻だし、勤めに出て私がいない間も、家中にエバとビーバーの笑い声が絶えないのは、皆妻のさりげない演出のせいじゃないか」

小野（ライオン）は思います。

互いを気遣う暮らしにも、別れの日はやってきます。

2年前、エバは天国に旅立ちました。小野夫妻とビーバーに見送られ、優しい穏やかな寝顔のままの旅立ちでした。でも、エバはいなくなったのではありません。残された者たちの親切のし合いっこの中で、ニッコリ微笑んでいるのでしょう。

今夜も小野（ライオン）は、ビーバーの寝床をそっと訪ねます。ビーバーは安らかな眠りの中で応えているに違いありません。

「ア、リ、ガ、トウ」

3

4

5

昨年は不作だったが、今年は見事な豊作となった。メンバーは大量の梅干し作りに追われ、今年の販売が楽しみとなっている。

### 滋賀県·栗東（335-C）
7月19日、栗東芸術文化会館において、2006年1月に全国高校サッカー選手権大会で初優勝した、滋賀県立野洲高校サッカー部の山本佳司監督を招いて講演会を実施した。市内の学校の生徒やスポーツ少年団、サッカー協会などの参加協力を得、市の教育委員会にも後援頂き、青少年の健全育成のアクティビティとして大成功を収めた。

### 兵庫県·大屋（335-D）
7月20日、障害者施設「おおや作業場」と「たんぽぽの家作業場」の利用者25人との「第24回合同サマー·キャンプ」を実施した。午前中は鉢伏山にメンバーと2人1組になり登山。車いすの人たちはふもとでパン作り。午後からは鉢伏高原で一緒にレクリエーションやゲームで楽しんだ。

### 岡山パール（336-B）写真4
子どもたちに盲導犬についての理解を深めてもらうことを目的に、7月4日、「盲導犬について親子教室」を保護者と共同で企画・開催した。児童と保護者約80人が参加し、講師が障害物を避けて目の不自由な人をガイドする訓練の様子や役割を、アピール犬のデモンストレーションを交えて講演した。

### 岡山県·真庭旭（336-B）写真5
7月23日、キャンプ施設「少年の森」の草刈り清掃を行った。これはクラブ結成以来、毎年行っている環境美化活動で、今年も多くの方に安全に、気持ちよく使用してもらおうとメンバー16人が早朝から汗を流した。

### 広島シニア（336-C）
8月6日、広島平和記念公園で開催された「8月6日広島平和記念式典」の会場において、障害者や高齢者への車いす介助のボランティアを行い、大変喜ばれた。これからも、より多くの障害者や高齢者の方に安心して式典に参加して頂けるよう、毎年活動を続ける予定。

### 福岡県·浮羽（337-A）
7月26日、「社会福祉法人ゆうかり学園」の盆踊り大会に協力した。当日はメンバー15人が模擬店出店の手伝いや駐車場係を行い、参加者が盆踊りを最後まで安心して楽しめるように活動した。

### 沖縄県·北谷（337-D）
7月15日、嘉手納基地内にて近隣に住む日米の子どもたちが共にゲームや遊戯、レクリエーションの活動を通し、相互理解や国際感覚を養うことを目的とする交流会「ロックイン」を実施した。

---

■投稿要領→8月号62㌻
※サバンナ(マンスリー報告システム)からも文字原稿を投稿頂けます

## サービス・アクティビティ

### 神奈川県・横浜東戸塚（330-B）写真❶

7月8日、クラブ恒例のチャリティーほおずき市を実施した。今回で10回目となり、妙法寺境内ではおずき市やバザー、模擬店の出店や、7カ所の地域作業所の手作りクッキーや工芸品の販売を行った。当日は晴天に恵まれ、家族連れを中心に多くの人が集まり、盛況のうちに幕を閉じた。収益金の一部は泉区・戸塚区の社会福祉協議会へ寄付される。

### 埼玉県・さいたまロイヤル（330-C）

7月30日、さいたま市浦和区大原の埼玉県障害者交流センターにおいて開催された納涼祭で、焼きそばや飲み物の屋台を出店し、およそ250人に販売した。資金調達アクティビティと共に、障害者との交流を通してライオンズクラブのPRにも大きく貢献した。

### 北海道・陸別（331-B）

7月21日、青少年の薬物乱用防止と、健全育成を目的に、保健所や町役場の協力で大麻撲滅作戦を行った。野生大麻が群生している場所に出向き、草刈り機で刈ったり、手で引き抜くなどして大麻の撲滅を願った。今後も継続して活動していく予定。

### 青森県・浪岡（332-A）

8月15日、浪岡北畠まつりの行事である「第5回県下泣き相撲大会」に協賛した。「お子様の健やかな成長を願って」をテーマに行われた泣き相撲大会では、子どもの泣き声が会場である浪岡八幡宮境内に響き、ユニークな内容に会場が沸いた。

### 山形県・大石田（332-E）

大石田町の学校ではボランティア隊員を随時募り、見守り隊結成の動きが広がっている。そのため7月18日、子どもたちの安全を守る見守り隊活動に役立ててもらおうと、防犯用ベスト50着を町教育委員会に寄贈した。

### 茨城県・下館シニア（333-B）写真❷

茨城県県西生涯学習センター周辺のあじさいの開花時期が過ぎた7月22日、例会後の時間を使って夕方まで剪定作業を行った。このあじさいは10年間にわたり植栽し、現在は約1,600本に達している。

### 愛知県・名古屋ブルースカイ（334-A）

昨年度に引き続き、今年度も青少年育成事業に重点を置き活動。2005年7月から2008年6月の3年間を青少年の「薬物乱用防止・エイズ撲滅キャンペーン」期間とし、小、中学生を中心に「薬物乱用防止教室」を開催している。今年度も既に10校での開催が決定し、今後もクラブのメーン事業としていく予定。

### 静岡県・西伊豆（334-C）写真❸

学問の神様として知られる小田瀬天満宮に植樹した梅の木から取れる実を使用し、梅干しを漬け、シソ入りとなしの2色のおめでたい紅白をイメージした「合格祈願の梅」として販売し、好評を得ている。収益金はさまざまな社会福祉事業に寄付する予定。

CLUB REPORT
# クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は8月号62ページ、または『ライオン』誌ウェブ・マガジンをご覧ください。

宮崎県・高千穂ライオンズクラブ
## 高千穂駅の除草とトイレ清掃

高千穂ライオンズクラブ（興梠詔保会長／50人）は高千穂鉄道の運行再開を願い、7月22日高千穂駅構内で除草作業やトイレ清掃を行いました。

昨年9月の台風により二つの鉄橋が流され、高千穂鉄道は大打撃を受けました。そこで運行を再開させようと、新会社・神話高千穂トロッコ鉄道㈱を設立し、活動していたところ、337・B地区から支援金として100万円を頂きました。それを元に活動していましたが、本拠地の高千穂駅は雑草が伸び放題になり、大変見苦しかったので、クラブで月1回行う奉仕活動の場所を高千穂駅とし、今回の清掃奉仕が実現しました。

この日は15人が参加し、1メートル程に伸びた駅構内の雑草を、持参したかまや草刈り機で刈り取り、約2時間掛かりで周辺は見違えるほど奇麗になりました。併せて駅のトイレを清掃した他、我がクラブが以前植えた桜の木、約20本の手入れも行いました。またこの作業は地元新聞社の取材を受け、記事にもなりました。高千穂鉄道がいつ再開してもいいように、今後もお手伝いしていく予定です。地元住民や学生たちにも呼び掛けて、毎月1回の奉仕作業に汗を流したいと思います。

（幹事／興梠栄二）

（編）鉄道再開に向けて、市民と心を一つにして活動する、素晴らしいアクティビティだと思います。1日も早く運行されるといいですね。

連絡先→0982・72・3860

岐阜県・土岐ライオンズクラブ
## 連続1000回出席記録

土岐ライオンズクラブ（安藤国市会長／48人）は6月16日、2005‐06年度の夫婦同伴さよなら例会を行いました。席上、年度内例会の皆出席者褒賞の授賞式が行われ、ライオン加藤正弘が本例会で入会以来千回目の出席日に当たり、本年度皆出席者褒賞の受賞と共に、例会連続千回出席達成の意義ある褒賞に重なる貴重な記念日となりました。

会場の同席者からは驚嘆の声と、ひときわ大きな賛辞の拍手喝采が沸き起こり、貴重な記録の達成に全員で祝福しました。

ライオン加藤は1964年の10月に入会され、今日まで通算41年8カ月にわたりウィ・サーブの実践に専念されてきたことになります。ここにその快挙をたたえると共に、土岐ライオンズクラブの会員一同も大変誇りに思っています。（監査委員長／安藤英夫）

（編）ライオン加藤はクラブから複合地区までさまざまな役職に就かれ、アクティビティも率先、MJFやキー賞を何度も受けているそう。今後もライオンの模範となってください。

連絡先→0572・54・1900

337-D地区第3リジョン

## 外国人留学生へ奨学金贈呈

337－D地区第3リジョン（沖縄県）で組織している「ライオンズクラブ在沖外国人留学生奨学会」は6月29日、県内の5大学から選ばれた中国やブラジル、ネパールからの留学生25人にそれぞれ5万円ずつ、計125万円の奨学金を贈った。

奨学金は国際交流と相互理解の精神を培う目的で、20年前から継続事業として行っている。当会事務所で行った式には各大学から国際交流担当者と留学生6人が参加した。

イラスト／篠田和夫

参考書の購入などに活用してもらえるよう、留学生一人ひとりに手渡した。沖縄大学の法経学科に留学中の成密密さん（中国）が「将来は保育園の経営がしたい。生活や勉強は苦しいが、頑張れると思う。有効に使いたい」と感謝の言葉を述べてくれた。今後も未来ある学生のために続けていきたい。

（ライオンズクラブ在沖外国人留学生奨学会理事長／前森一徳）

（編）同会の応援が留学生の皆さんへの励ましとなり、将来大きな実を結ぶことでしょう。

連絡先↓098-864-1640

富山みなとライオンズクラブ

## 蛍を通して海と山の交流

富山みなとライオンズクラブ（高松丈志会長／40人）は7月1日、蛍を通して海辺と里山の子どもたちの交流会を開催しました。平成7年から海辺の岩瀬小学校の5年生を対象に、自然を学び、親子のふれあいの場とするため蛍学習を行い、今年で12年間続いています。春には校内の池と里山の下田地区の小川に幼虫を放流し、夏には羽化した蛍を親子で観賞に行きます。

そして今年は初めて、現地下田地区の子どもたちが幼虫の放流に参加したことから、蛍観賞会を一緒に開催することになりました。

夕方、岩瀬小学校の5年生とその家族54人と教職員やクラブ・メンバー16人がバスで出発し、下田地区の親子30人と合流しました。児童たちは互いにいろいろな催しを披露し、双方の親子で交流を深め、その後、幼虫を放流した近くの小川に移動しました。前日までの大雨も止み、暗い夜空に例年以上に多くの蛍が乱舞し、参加者全員が歓声を上げていました。

帰校して校内の池を観察したところ、毎年2、3匹しか羽化しなかった蛍が20から30匹も光り、児童たちは大騒ぎ。蛍がいることを信じていなかった父母も驚いていました。下田地区の村人の協力と希望もあるので次年度以降も交流会を続ける予定です。

（事業委員長／畠山志郎）

（編）下田地区では水田での農薬使用を抑えたり、草刈りの時期をずらすなどの配慮もしてくれたそうです。

連絡先↓076-438-2945

鹿児島県・志布志ライオンズクラブ

## 薬物乱用防止キャンペーンに参加

志布志ライオンズクラブ（33人）は7月15日、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」と、薬物乱用防止を訴える6・26ヤング街頭キャンペーンに参加した。ライオンズクラブの他、ロータリークラブや更生保護女性会など大人たち200人と、中高生ら230人が参加。お揃いのTシャツや帽子をつけた中高生らは買い物客にリーフレットやうちわを配りながら、薬物乱用の怖さを訴えた。

出発式では高校2年の貴島葵さんが「ふるさと志布志が薬物乱用にまみれることがないよう訴えていこう」と決意を表明し、スーパーなど町内数カ所に分かれ、全員でキャンペーン活動を行った。主催の曽於ウイルの藤井龍道会長は「毎年、若者たちの参加が増えており、頼もしい。キャンペーンに参加しなかった友達にも、薬物乱用の怖さを伝え、輪を広げてほしい」などと話していた。

大規模な事業だったので地元新聞にも紹介された。我がライオンズクラブも継続的に参加していきたいと思っている。（会長／西国領正）

（編）昨年度、志布志ライオンズクラブは結成40周年を記念して、同ゾーン所属の大隅、末吉の3クラブと共に、環境保全カーや留学生奨学基金の贈呈、知的障害者自立支援などの合同事業も実施しました。

連絡先→099・472・0628

北海道・サッポロシニア・ライオンズクラブ

## トウモロコシでふれあいの出店

「さあ、ゆでたてですよ」「甘くておいしいよ」と、メンバーのかん高い声が会場の体育館内に響く。

社会福祉法人北海長正会「北広島リハビリセンター」のセンター祭が、7月23日に開かれた。サッポロシニア・ライオンズクラブ（小南忠行会長／22人）と札幌コスミックシニア・ライオンズクラブ（滝沢秀子会長／20人）の共催で、今年5回目となる名物のトウモロコシ販売を行った。

青果会社社長であるメンバーの協力で、朝もぎたてのトウモロコシを300本仕入れた。両クラブから21人が参加し、会場に運び、皮をむく。大きな鍋でゆで、衛生上1本1本ビニール袋に入れて販売開始。馴染みの客が多く、車いすに乗って「3本ちょうだい」「私は10本もらう」と、笑顔で買って行く。身体が不自由で買いに来られない人へも、メンバーがお盆に載せて施設内を回り、売って歩いた。人気商品とあって、1時間余りで完売した。

同センターと我がクラブは98年の結成以来交流を続けている。センター祭のスローガンは「人と人とのふれあいの中から共に生きることの喜びを知ろう」で、北の大地の恵みの販売を通じ、多くの人と絆を深め、ウィ・サーブの喜びを知る1日となった。（PR委員長／森一男）

（編）市価より2、3割安い1本200円で販売。純益の3万円を、同センターに寄贈したそうです。

連絡先→011・612・8858

兵庫県・北神戸グリーン・ライオンズクラブ

## 第1回チャリティー・コンサートを開催

北神戸グリーン・ライオンズクラブ（中土井佐造会長／24人）は、「障害がある人もない人も共に暮らす私たちの街」を目指して、約半年の準備期間を経てメンバー全員の努力と協力により6月18日に神戸市北区の「すずらんホール」にて「第1回ノーマライゼーションチャリティーコンサート」を開催しました。

当日はこの趣旨に賛同頂いた、神戸市北区役所を始め、地区連合自治協議会や連合婦人会など6団体の後援を得て、急きょ補助いすを用意するほどの盛況となりました。

演目は男性デュオ・アゲイン、西垣俊朗・千賀子夫妻の歌曲、地元コーラスの合唱、県柔道整復師会の体操などバラエティーに富んだもの。

素晴らしい音楽や時間を共有することが「誰もが普通に暮らせる街」への啓発につながると考えました。またその人の立場に応じた権利と義務を認識し合うことで、障害のある人にもあえて入場料を負担して頂き、この趣旨を共に理解し合おうと計画致しました。

障害のある方は千円、障害のない方は2千円の入場料を設定し、収入から必要経費を差し引いた収益金から当日、自立支援資金として2施設と2団体に計40万円を贈呈。残金は近日中に地域福祉関連事業の支援資金に充てる予定にしています。

（前会長／植中雅子）

（編）「感動した」「来年もぜひ」と好評で、行政からの熱望もあり、継続事業にしたいと考えているそうです。

連絡先↓078・982・4876

愛知県・新城ライオンズクラブ

## 感謝デー・夏の家族例会

新城ライオンズクラブ（中神覚会長／79人）は8月2日に夏の家族例会を開催し、54家族、161人の参加を得て楽しい1日を満喫しました。

私たちのクラブでは夏休みを考慮し、毎年この時期に夏の家族例会を実施しています。ご家族の方々にライオンズクラブをよく知って頂き、心強いご支援ご協力を仰ぎながら、信念を持って奉仕活動にまい進しているところであり、まさにクラブの感謝デーであります。

今年は海のリゾート・三重県長島温泉で開催、大型バス3台と自家用車数台に分乗し、ホテルへと向かいました。

到着後、早速ホテルでの全員参加の例会を行いました。会長のあいさつでは「日頃、ご家族の皆さんには温かいご理解の下、力強いご支援とご協力を賜り、そのおかげで私たちメンバーは自信を持って奉仕活動が出来ますことを心から感謝致します。これからもよろしくお願い致します」とお礼の言葉があり、万来の拍手が湧き上がりました。

楽しいバイキング昼食で会員や家族間の親睦を図り、その後、ジャンボ海水プールで遊び、館内でショーを観賞し、また自由散策で一日を楽しみ、更なる信頼の絆を深めることが出来ました。　（幹事／長屋清文）

（編）ご家族の協力あってのライオンズ活動。奉仕に励むためのバックアップも万全ですね。

連絡先→0536・23・3211

京都府・宮津ライオンズクラブ

## 海辺の掃除やパトロール実施

京都府の日本海側に位置する、日本三景の天橋立を訪れる海水浴客に楽しい一日を過ごしてもらおうと、宮津ライオンズクラブ（武田恭和会長／60人）は毎年、海辺の清掃や救護室を開設しています。

この真夏の奉仕活動は、結成以来毎年行っている継続事業で、今年は会員50人余りが参加しています。

清掃作業は朝の涼しいうちに行い、海水浴場に捨てられた前日のゴミを、持参したビニール袋に拾い集めます。一方、臨時のテントに開設される救護室には、毎日3人1組で夕方まで詰めます。以前は地元の市役所も開設していましたが、10年程前から閉鎖していて、もっぱら当クラブが海水浴客の安全を日々守っています。

当番の会員は双眼鏡を首から掛けて、込み合う海水浴客の間を定期的にパトロールして、けが人や溺れかかっている子どもがいないか見回ります。会員は医師ではないので本格的な手当ては出来ませんが、擦り傷やクラゲに刺された処置など最低限の手当てをします。また迷子の捜索やトイレ、列車時刻の案内などよろず相談所でもあります。

行政側が撤収した今、海水浴客の唯一の相談窓口であり、シーズン中には必ず開設され、京阪神などから訪れる大勢の海水浴客に便宜を図り、毎年感謝されています。

（青少年委員／吉野耕司）

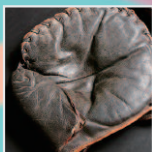
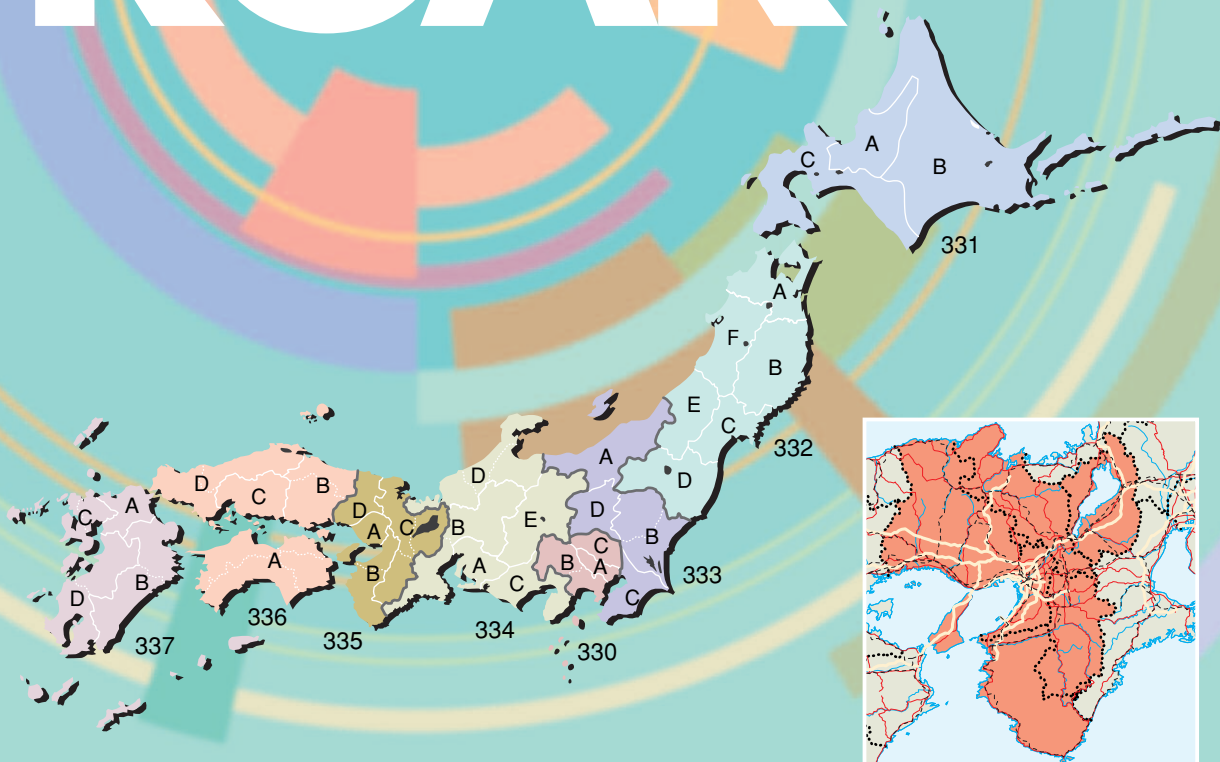
（編）毎日朝から夕方まで大変ですが、海水浴場では必要不可欠な役割。がんばってください。

連絡先→0772・22・2633

# まるごと 335複合地区

Topics
1 兵庫県伊丹笹原
2 兵庫県西宮中央
3 大阪府泉佐野中央
4 和歌山県新宮
5 京都チェリー
6 兵庫県加古川

日本の風景　滋賀県余呉

ふるさと探訪 奈良県三宅

# ROAR

# 「何を書き込むかは君たち次第だ」学生が企画運営するコンサート後援

**兵庫県・伊丹笹原ライオンズクラブ**

■情報提供／寺田勝重（前会長）

兵庫県の東端にある伊丹市。大阪国際空港（伊丹空港）がある利点から、半導体などのハイテク産業が集まる。同市にある伊丹笹原ライオンズクラブ（梶原洋三会長／33人）は毎年5月、学生たちが自主運営するコンサート「ブランクノート」を後援している。音楽好きな学生に発表の機会を与え、コンサートの企画運営を通して自主性や協調性を養ってもらうのが狙いだ。

ブランクノートとは、真っ白で何も書かれていない企画書のこと。「ノートに何を書き込むかは君たち次第だ」という、メンバーたちの思いが込められている。

去る5月13日、市内のホールで行われた第2回ブランクノートには、地元の大学生や中高生らの音楽グループ6組が参加。集まった観客約130人が、ロックやポップス、和太鼓などの演奏に聴き入った。

トップバッターは女子高生中心の5人組ロックバンド「5♯（ゴシャープ）」。かわいらしいルックスとは似つかない轟音で会場を盛り上げた。男性フォークデュオ「すだち」は、よく伸びる高い声と美しいハーモニーを披露。メジャー・デビュー間近というのもうなずける。伊丹太鼓の4人組「風牙（ふうが）」は、ロックに負けじと和太鼓を乱れ打ち。最後は、実力派ロックバンド「ハウリング・オブ・レジスタンス」が、プロ顔負けの演奏テクニックを見せつけて、フィナーレを飾った。

女子高生中心の「5#」

フォークデュオ「すだち」

伊丹太鼓の「風牙」

このコンサートは、会場の予約から、ポスターやチラシの制作・配布、音響や照明まで、すべて学生たちの手によるもので、同クラブは助言や費用の負担など、裏方に徹した。両者は、昨年9月から16回もの会合を重ね、開催にこぎつけた。

このアクティビティの発案者である榎本善順元会長は「やる気のない若者が増える中、自分たちで何かを創りあげることの大切さを、実感してくれれば」と語る。

学生たちからは、今後もコンサートを続けたいという強い要望が出ており、同クラブは、より大規模なコンサート開催に向けて協力していく考えだ。

Topics トピックス2

# 高校生の論文コンクール開催<br>まちへの提言に市長もうなずく

## 兵庫県・西宮中央ライオンズクラブ

■情報提供／八木米太朗（青少年育成委員長）

例会でスピーチする上位入賞の高校生

兵庫県の東南部、大阪と神戸の中間に位置し、六甲山を背に大阪湾を望む西宮市。同市にある西宮中央ライオンズクラブ（須磨俊影会長／23人）では、市内の高校生を対象に「高校生論文・まちづくりへの提言コンクール」を開催している。西宮に対する理解と愛着を深めてもらうのが目的で、今年で9回目。冬休みに論文を書いてもらい、毎年3月に優秀作を表彰、上位4人は例会で発表も行う。

今回のテーマは「あすの西宮、教育・文化・情報のまちづくり」で、市内3校から416点の論文がクラブに寄せられた。審査に当たったのは山田知・西宮市長や眞鍋昭治・西宮市教育長、メンバーら計10人。体験に基づいた内容か、一般論で終わってないか、提言に西宮らしさがあるか、などを基準に審査した。

その結果、三瀬（みせ）彩菜さん（市立西宮高校1年）の「まちづくりは人づくりから」が、最優秀作の西宮市長賞に輝いた。三瀬さんは、中学生の時に地域について調べる学習をして、自分と地域との距離が縮まったという。その体験から、地域活性化のためには、イベントをやったり、特産品を作ったりするよりも、「人（小中学生）の教育からやるべきだ」と、子どもと地域との触れ合いの大切さを強調。

「まちづくりは、西宮の将来を担う小中学生に任せてみよう」と結んでいる。

山田市長から賞状を授与される三瀬さん

また、優秀作の西宮中央ライオンズクラブ会長賞には、仲眞綾沙さん（夙川学院高校1年）の「私の考える教育」が選ばれた。仲眞さんが、不登校から立ち直ることが出来たのは「友達の勇気と人を思いやる優しさ」だったという。そして、受験やテストのための教育ではなく、心を育てるための教育を、と訴えた。

去る3月15日、市内のホールで開かれた表彰式には、保護者や学校関係者ら約40人が出席。あいさつに立った山田市長は「三瀬さんは、まちづくりは人づくりと提言されましたが、私もその通りだと思います」と感想を述べていた。

コンクール開催に尽力した青少年育成委員長のライオン八木米太朗は「1人でも多くの高校生が『自分たちのまち』について考えるきっかけになってくれれば」と話している。

# 親子3代46年 貧しいお年寄りに老眼鏡を贈り続けるライオン吉野健治郎

大阪府・泉佐野中央ライオンズクラブ

■取材／編集部

大阪府の南部、大阪市と和歌山市のほぼ中間にある泉佐野市。同市に本部を置くメガネチェーン「ヨシノ眼鏡店」では、市内の生活保護を受けるお年寄りに老眼鏡を贈っている。創業者の故・吉野恒一さん、2代目で泉佐野中央ライオンズクラブ（36人）のライオン吉野健治郎（76）、後継者の吉野勝さん（50）と親子3代にわたって取り組んで、今年で46年目。これまでにプレゼントした老眼鏡は3千個を超える。昨年、ライオン吉野親子は、この活動が評価されて、社会に貢献した市民を顕彰する「シチズン・オブ・ザ・イヤー賞」（シチズン時計㈱主催）を受賞した。

シチズン時計の表彰式でのライオン吉野（左）と長男の勝さん

同店が泉佐野で創業したのは1927年。1961年にライオン吉野の父、恒一さんが「こないして商売させてもらってるんやから、何か（地域に）お返しすることないかなあ」と市に相談し、生活保護を受ける60歳以上を対象に老眼鏡を提供し始めた。

老眼鏡を贈る父の恒一さん（故人）

以来、毎年9月、市が対象者に呼び掛けを行い、希望者には検眼をしてオーダーメードの老眼鏡を作る。1個約8千円のもので、昨年は67人に贈った。「無料やからこそ、しっかりしたいいものを渡さないと、信用をなくしますわ」とライオン吉野。

街ですれ違ったお年寄りに、「ありがとう。お陰さんでよく見えます」と、声を掛けられるのがうれしいと、目を細める。

なお、いつも老眼鏡をもらっていた人が、立派な身なりで来店したり、逆に、店に姿を見せなくなった得意客が、老眼鏡提供の会場に現れたりすることもあるという。ライオン吉野は「世の中というものは、回転しているんやなあ」と感慨深げだ。

街のメガネ屋さんを、チェーン店に育て上げたライオン吉野の経営理念は「お客様に奉仕する」。「ライオンズの『ウィ・サーブ』と全く同じです」と言う。

2001年からは、タイに出向いて老眼鏡を贈る運動にも参加。各店舗で下取りしたメガネをリサイクルして無料配布している。

タイでも老眼鏡をプレゼント

泉佐野中央ライオンズクラブの東寛会長は、「いつも笑顔を絶やさないライオン吉野は、我がクラブでも紳士中の紳士。これからも、元気で地域に奉仕してほしい」と話している。

Topics トピックス4

# 要約筆記通訳者を育成し難聴者の社会参加を支援

## 和歌山県・新宮ライオンズクラブ

■情報提供／桜田総一郎（会計）

聴覚障害者の「耳」となり、会話の内容を素早くまとめて筆記で伝える「要約筆記」が注目されている。病気で突然音を失った中途失聴者や、高齢のために難聴になった人がすぐに手話を習得することは難しいが、要約筆記通訳者がいれば、意思疎通がスムーズに出来るからだ。しかし、聴覚障害者のニーズに比べ、要約筆記が出来る人はまだまだ少ない――。

和歌山県南東部、熊野灘に臨み、世界遺産の熊野古道で知られる新宮市。同市にある新宮ライオンズクラブ（円靖夫会長／78人）は、市民対象の「要約筆記通訳者育成講習会」を開いている。335複合地区と、聴覚障害者の自立を支援するNPO法人「デフピープル」の助成を受けて、同クラブが受講者を募集、今年4月に開講した。受講期間は1年。現在、書類選考をパスした市民11人が、週1回のペースで要約筆記を学んでいる。

同クラブは、要約筆記に必要なノートパソコンやスクリーンなどを用意、ハード面から講習会をサポートしている。パソコンを使った要約筆記は通常3人1組で行う。2人が話を交代で聞き取って入力し、残りの1人が誤字や脱字がないかをチェックする。打ち込んだ文字は自動的にスクリーンに映し出される仕組み。

講習会では、講師の佐野かおるさんの読み上げる文章を、受講生たちが懸命にパソコンに入力していく。もちろん、キーボードを見ずに文字入力をするブラインドタッチで、である。

要約筆記の難しさは、スピードだけでなく、話の内容のポイントをつかみ、要点を整理して文字に表すことにある。1分間に300～350字とされる話し言葉も、手で書くと60～70字が限界。パソコンで打っても120字ほどだからだ。「要約筆記の三原則は、正しく、速く、読みやすく、です」と佐野さん。

同クラブでは講習会終了後、育成した要約筆記通訳者の協力を得て、定期的に聴覚障害者も参加出来る講演会や勉強会を開催したい、としている。

# DV被害の女性と子ども支援 「心の傷」の複雑さに困難も

京都チェリー・ライオンズクラブ

■情報提供／磯辺寿子（元会長）

啓発ビデオに見入るメンバーたち

配偶者や恋人からの暴力、ドメスティック・バイオレンス（DV）。警察庁の調査によれば、2005年に全国の警察が把握した配偶者によるDV事案は1万6888件。前年より17・2％増加し、2001年のDV防止法施行後、過去最悪となった。DVはしばしば子どもにも向かい、児童虐待になるという――。

京都チェリー・ライオンズクラブ（山手妙子会長／60人）では、2004年の結成以来、DV被害者のサポートに取り組んでいる。きっかけは、初代会長のライオン磯辺寿子が、DVを受けた女性とその子どもを保護する「母子生活支援施設 ヴェインテ」の建設にかかわったことによる。

講演する衆議院議員のライオン池坊保子

当初は、DVという言葉を初めて聞くメンバーもいて、まずDVについて学ぶことから始まった。DV防止の啓発ビデオを見たり、市の関係部署の職員による講演を聞いたりして、知識と理解を深めてきた。

「最初はビデオを見て恐がるメンバーもいました」と、山手会長は振り返る。

その他、「DV被害者支援ボランティア講座」の受講や、弁護士や家裁調査員を務めるメンバーらによるDV関連のスピーチなども頻繁に行っている。最近では、メンバーで衆議院議員のライオン池坊保子が、自身が立法に深くかかわった「児童虐待防止法」について講演した。

去る8月2日には、ヴェインテの児島邦夫理事長による講演も行われ、入所者が夫に居場所を知られて連れ戻された事例や、虐待を受けた子どもは周囲の人に暴力を振るい、加害者と同じことを繰り返しがちなこと、などを話した。

金田孝子幹事は「DVの根本には、核家族化に代表されるような人間関係の希薄化があるのでは」と感想を話す。

ヴェインテのクリスマス会にも参加

同クラブでは、ヴェインテに定期的に日用品や衣類などを提供、クリスマスには入所者たちとケーキ作りを楽しんだりしている。しかし、入所者たちの心の傷は複雑で、メンバーとの交流がかえって傷を深くする恐れもあり、間接的なサポートがメーンだ。

同クラブは、今後、基金を設立して緊急時に資金を貸し出すなど、サポートの充実を図りたい考えだ。

Topics トピックス6

# 「モノを売るって大変やなあ」中学生たちが店頭販売を体験

## 兵庫県・加古川ライオンズクラブ

■情報提供／松原公平（幹事）

兵庫県内の中学2年生が1週間にわたって職場体験をする県の事業「トライやる・ウィーク」。「生きる力」を育てる取り組みとして1998年に始められ、文部科学白書にも採り上げられるなど、全国的にも高い評価を受けている。

兵庫県南部、播磨臨海工業地帯の中心都市である加古川市。同市の加古川ライオンズクラブ（池澤卓美会長／27人）も、初年度からトライやる・ウィークに参加している。毎年、障害者たちが作った食品や手芸品などを売る「テルベ」を商店街に出店、加古川中学校の生徒たちに店頭販売を体験してもらう。生徒たちは、商品を作った障害者らと共に、陳列や販売、後片づけまで行う。

なお、例年、同中学の生徒約300人が、約70の事業所で職場体験をしているが、その中にはメンバーの経営する企業も3社ほどある。

メンバーは出納など裏方を担当

今年6月のトライやる・ウィークでは、生徒延べ30人が、メンバーらの見守る中、店頭販売を体験した。最初は、恥ずかしくて「いらっしゃいませ」の声を出せなかった生徒たちだが、メンバーがお手本を示して励ますと、次第に大きな声が出るように。中には、駅前まで「遠征」して菓子パンを売りさばく男子生徒もいた。売れ筋はパンとクッキーで、売り上げは計30万円に上った。

生徒たちからクラブに寄せられた感想文には、「モノを売るって大変やなあと思った」「こんな仕事も楽しいなと思えた」「モノを売っている人の気持ちが分かった」などと書かれており、それぞれ手応えを感じた様子である。

同クラブの松原公平幹事は「初めは、もじもじしていた子どもが、だんだん積極的になってくるのがとうれしい」と話す。以前、不登校の生徒を受け入れたところ、元気を取り戻してくれたこともあったという。

フリーターやニートが社会問題化する中で、子どもたちに仕事の楽しさや、働くことの大切さを知ってもらうこの活動。まさに時宜にかなったアクティビティであろう。

# 滋賀県・余呉
# 天女の羽衣や、龍神・菊石姫などの伝説が残る神秘の湖

■切画：風祭竜二　文：編集部

余呉町は琵琶湖の北、いわゆる湖北にあり、木之本、高月、西浅井と共に伊香郡を形成している。

湖北は「近江の北海道」とも言われ、冬はどんよりした雪雲に覆われる日が多い。そんな北陸型の気候を、地元の人たちは「伊香しぐれ」と呼ぶ。「伊香」というのは古語で「雪」を意味する言葉だそうで、その名の通り、湖北の冬は雪が多い。これは湿った日本海の風が伊吹山にぶつかって雪を降らせるためで、冬場、米原や関ケ原辺りで東海道新幹線に遅れを生じさせるのは、この「伊香しぐれ」が犯人だ。

関ケ原と言えば、豊臣秀吉死後の政権を巡って争われた「天下分け目の戦い」で知られるが、その秀吉が、織田信長の後継を柴田勝家と争ったのが、賤ケ岳の合戦だ。賤ケ岳は余呉町にあり、山頂からは南に琵琶湖、北に余呉湖が望め、琵琶湖八景の一つに数えられている。

眼下に見える余呉湖は町のシンボル的存在。表紙は、この余呉湖で撮った。別名「鏡湖」と呼ばれる穏やかな湖面を持ち、天女の羽衣や、龍神・菊石姫などの伝説が残る。ちなみに羽衣伝説には、天女の生んだ子が、余呉湖の東の山中にある菅山寺で育てられ、菅原道真になったという後日談が付いている。（鈴）

**観光一口メモ**

高月町の渡岸寺観音堂（向源寺／JR高月駅から徒歩10分）には国宝十一面観音立像がある。琵琶湖八景に数えられる景勝地、竹生島（飯浦港、長浜港などから船）は古くから信仰の島として崇められ、竹生島神社、宝厳寺（西国三十三箇所三十番）がある。秀吉の出世城・長浜城はJR長浜駅から徒歩8分。

**アクセス**

JR北陸本線余呉駅下車。余呉湖畔へは駅から徒歩5分。車の場合は北陸自動車道木ノ本ICを利用。

**周辺クラブ**

伊香郡には1964年、長浜ライオンズクラブのスポンサーで結成された木之本ライオンズクラブがあり、郡内4町の会員で構成されている。

ふるさと探訪

奈良県　三宅町

# 野球小僧への第一歩、万葉の里が生んだ必携スポーツ用品

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

## 世界に誇る地場産業

ブラジルの子どもが数人集まれば自然に球蹴りが始まるというが、これと同じようにかつての日本で男の子を夢中にしたのは、球投げと球打ちであった。そして、いつしか球打ちの棒はバットに代わり、手にはグローブがはめられた。たいてい新品ではなくお下がりではあったが、初めて野球用品を手にしたその瞬間、野球小僧は決まって顔をくしゃくしゃにして喜んだものだ。

奈良県北西部、奈良盆地のほぼ真ん中に「グローブの街」三宅町はある。『万葉集』の中にも「三宅の原」「三宅道」と詠まれているように万葉の時代からその名はあるが、大正の半ばに野球用のグローブやミット、スパイク、昔は革製だったスキー靴の生産技術が導入されてからは、スポーツ用品産業の街として知られるようになった。昭和45年頃に最盛期を迎え、グローブで年間60万個を生産。一つひとつ職人の手によって作られたこれらのグローブは、国内のみならず野球の母国にも認められ、

累計587万個がアメリカへ輸出された。と言ってもこれは過去の話。近頃は事情が違うようである。

「最近では、韓国や台湾製のグローブ・ミットが国内に入ってきています。国産品と比べてもそれほど品質が変わらない上、格段に安価。そのため今ではグローブ・ミットの生産量は最盛期の10分の1にまで落ちました」と話すのは、吉川清商店の吉川雅彦さん。三宅町が誇るグローブ作りの職人だ。スポーツメーカー大手数社でも硬式用と、軟式用の上位クラスを除いたほとんどのグローブを海外生産に頼っているが、細かなオーダーに迅速に対応出来るということで国内産のニーズも少なからずある。吉川さんが作るのは、そんなニーズに応えるグローブ。小売りはせず、複数のスポーツメーカーからの受注をこなし、40種類近い硬式用グローブを年間で約3000個生産する。

## 使い手の感性に訴えかける匠の技

吉川さんの作業場にお邪魔した。大きな機械がたくさんあってガシャガシャ音をたてている工場を想像し

【扉写真】昭和初期に三宅町で作られたグローブとキャッチャーミット（写真中、下）は今となっては大変貴重な資料。現在のモデル（写真上）と並べてみるとその違いは歴然

❶グローブの親指と人差し指の間の部分「ウェブ」のミシンがけ。もともと形状は多彩だが、次から次へと新しいデザインが生まれてくる。早さと対応力が求められる工程だ

❷皮から切り出したパーツと、グローブ作りに使う道具。グローブ作りには専用の道具というものがない。すべて何かを代用した自作品だ

❸手の形をした金型を裁断機にかけて、大きな皮からグローブのパーツを切り出していく

❹ミシンがけは主に吉川さんの仕事。グローブ作りにあって、最も高度な技術を要する。グローブ手前に積まれてあるのが、縫い合わせた皮を裏返ししたもの。もう見た目はほとんどグローブである

ていたが、思った以上に機械類が少ない。それだけ職人の技が必要とされることを感じる空間だ。作業場の入り口付近に積まれているのは、染色済みの牛の皮。複数の皮からパーツを取ることもあるが、目安として2歳の牛皮1頭分でグローブが10個、粒子が細かく柔らかい生後6カ月の子牛のなら5～6個のグローブが出来るという。皮は一般に背中側が固くて丈夫で、腹側はやわらかくよく伸びる。皮の特性とグローブの部位を考慮して、皮に付いた傷を避けながら無駄なく数多くのパーツが取れるように切り出す。使う道具は手の形をした金型。この金型を裁断機にかけていく。

切り出したパーツをミシンで縫い合わせ、裏返すとようやくグローブらしい形となる。特殊なアイロンをかけ皮を伸ばし、手が直接触れる部分に柔らかい皮で作った「裏」を、指の部分には骨の代わりとなる「フェルト芯」を入れ、表面を叩きながら形を整えていく。最後に紐を通すとグローブの完成となる。一度に何個も作るので概算となるが、吉川さんは1日に3個のペースでグローブを完成させることが出来るという。

各メーカーからいろいろな種類のグローブが出ているが、正しい選び方を吉川さんに聞いてみた。

「以前、あるプロ野球の選手に同じ形のグローブをいくつかお持ちした時のこと。どれをはめても気に入ってくれないので、倉庫にお連れして他の在庫を見て頂きました。その選手はいくつかグローブをはめた後『これだ』と、一つ気に入ったものを選び出しましたが、見た目は他と全く同じ。しかもいずれも一切手を抜かず丁寧に作り上げたグローブです。その選手のグローブ選びの基準は自分の手にしっくり合うというフィット感でした」

同じ金型で同じようにグローブを作っても、一つとして同じ物は出来ないと吉川さんは話す。使われる皮の場所も違うし、作っている時の作り手の微妙な気持ちも細部に影響するという。

「良いグローブというのは、はめてみて自分で良いと思ったもの」

職人らしいシンプルかつ深みのある答えである。

**後継者候補は元高校球児**

冒頭で触れたように、三宅町のスポーツ用品産業にはかつての勢いはない。現在、三宅町でグローブ作りに携わっている工場は20軒ほど。いずれも2代目、3代目が後を継いでいるが、ここ最近は職人が減少し、深刻な後継者問題を抱えている。吉川さんも、戦後すぐにグローブ作りを始めた父親の後を継ぐ2代目。同じ業界で販売の仕事をしていたが、24歳の時に職人として再スタートしている。吉川さんの元には、まだ後継者と呼ぶには早いかもしれないが1人のお弟子さんがいる。神奈川県

❺小学校の校庭では、子どもたちが野球の練習をしていた
❻後継者不足が問題視される業界だが、吉川さんの元では、若手の河本さんが日夜腕を磨いている
❼三宅町周辺は古代から豊かな水田が営まれてきた。「みやけ」という名も穀倉を意味する「屯倉」から付けられた
❽町中で見つけた看板。グローブの生産地であることが一目瞭然

茅ケ崎市出身の元高校球児、河本賢一さんだ。「将来は野球に関係する仕事をしたい」という思いを実現するべく、8年前に学校を卒業した後、単身三宅町にやって来て吉川さんに弟子入りした筋金入りの野球小僧である。現在25歳というから、師匠より7歳若くしてグローブ作りに携わったことになる。まだ、すべての工程を任せてはもらえないが、吉川さんにとっても貴重な戦力。期待度は高い。

「一度使ってたらもう一度使ってみたいと思わせるようなグローブをいつか作ってみたい」

そんな夢を抱きながら、今日も師匠の背中を追いかける。

## 太子道（たいしみち）

今も奈良盆地には、東西南北に区画された道が目立つ。古代の律令国家が行った土地区画「条里制」の名残であるが、地図を開かずとも実際に歩いてみるとその規則正しさを実感する。ところが、三宅町の真ん中を貫く1本の道は、この条里制を無視するかのように斜めに続いている。真北から西に約20度傾いたこの道は、家屋などの建築時に壁の補強に使う筋違（すじかい）に似ている所から「筋違道」などとも呼ばれる。言い伝えによると、法隆寺のある斑鳩宮（いかるがのみや）に住んでいた聖徳太子が、政務のため飛鳥小墾田宮（あすかおはりだのみや）に通った通勤路だったという。飛鳥から斑鳩を最短距離で結ぶこの道は、推古天皇が聖徳太子のために近道として作らせたとか、条里制が敷かれる前からあったなど諸説あるが、史実として確かめるすべはない。ただ、愛馬の黒駒に乗って太子がこの道を通ったという説が地元では根強い。通り沿いの杵築神社にはこの様子を表した絵馬が残されている他、向かいの白山神社には太子が腰を掛けたと伝えられる「腰掛け石」が残されている。最短距離とはいえ総距離は約23キロにも及んだという太子道、現在は磯城郡川西町、三宅町、田原本町などにわずかにその痕跡を残すだけとなっている。

太子道の沿道には太子が建立したと言われる寺院が多く、太子とのつながりをうかがえる

### クラブ紹介

奈良盆地の中央に位置する歴史と文化の町・田原本町。弥生時代の大規模集落「唐古・鍵遺跡」があることや、全国にいくつか存在する桃太郎生誕の地として知られる。この田原本町と、隣接する三宅町、川西町を含む磯城郡を活動エリアとしているのが田原本ライオンズクラブ（安達周玄会長／36人）。1976年、橿原ライオンズクラブのスポンサーで、県内16番目のクラブとして誕生し、今年で30周年を迎える。10月14日には、橿原神宮養生正殿で周年記念式典を開催する。30周年を迎えるに当たって、生涯学習センター図書館前に青少年非行防止を訴える標語入りの時計塔を寄贈する他、再開発が予定されている田原本町駅前に町内案内板を設置することを計画している。

主なアクティビティは献血活動。ここ数年、献血活動に幼稚園児を招き「血液は大事なもの」と教えるなど、献血人口の減少を抑制する啓蒙活動をPTAと共に行っている。

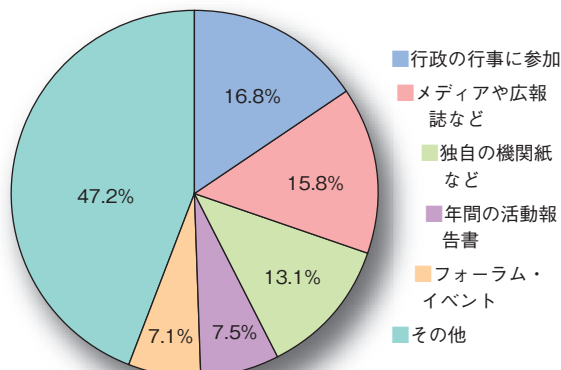
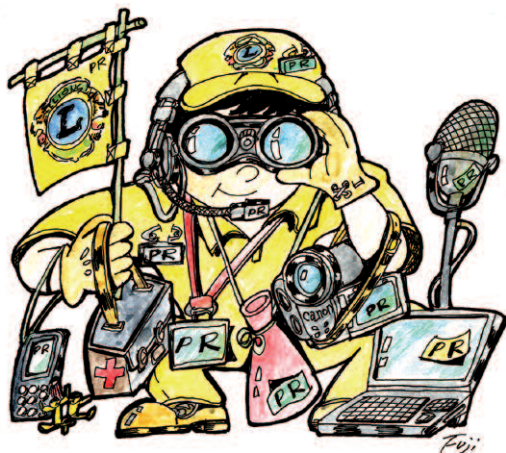
■田原本ライオンズクラブから読者プレゼントがあります（65ページ）。

# ひと工夫が必要なPRの方法と内容

■坂本信雄（京都府・亀岡保津川クラブ）
京都学園大学経営学部事業構想学科教授

せっかく活動の実績がありながら、PRが不十分なために存在感が薄いことがある。それだけにどの団体もPRに力を入れているところだ。内閣府が平成13年度に発表した「市民団体等基本調査」（対象4007団体）における広報活動の結果は、PRが多い・少ないかではなく、PRの方法について示唆されるところが多い。図に見るように「行政の行事に参加を通じて」が16.8%と最も多く、次いで「メディアや広報誌などを通じて」15.8%、「独自の機関紙やニュースレターを通じて」13.1%などとなっている。ライオンズクラブでは同様の調査が行われていないので比較が出来ないが、この調査結果とかなり異なるPR方法になっていることは想像出来よう。

昨年10月に、宮城県・仙台で開催された東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラムの「ミニ・フォーラム」において、筆者は「PRの重要性」と題してクラブのPRの在り方を取り上げたが、そこではPRの方法と並んで国際貢献のPRが不十分なのではないかとの思いからであった。

●市民団体の広報

ライオンズクラブの看板は二つである。国際協会の公式ホームページが示すように、外国の災害復興支援などの地球市民としての看板と、地域社会のリーダーとしての看板である。実際にもクラブのアクティビティ統計（本誌2005年12月号/金額ベース）によれば、青少年関係（23.0%）に次いでLCIF（11.8%）が2番目に大きい割合になっている。国際貢献活動はこの他にも青少年交換（4.1%）と国際援助（4.2%）が関連しているので、ライオンズクラブにとって、まさに国際貢献活動が主要な活動である。問題はこれだけの活動実績がありながら、単一のクラブではLCIFの実績などが話題になっているものの地域社会でのPRが希薄に止まっていると思われる点だ。一般市民から見れば、ライオンズクラブのイメージは多分に地域社会を対象にした活動体として映っているに違いない。

イラスト／藤英毅

確かに国際貢献の活動にかかわるPRは地域社会のそれよりも難しい。単一のクラブの貢献度だけを採り上げてもアピールの度合いは低いかもしれない。例えば、災害地への義援金はメンバー個々人だけではそれほど多くなくても、地区レベル、更には日本全体、あるいは世界全体として採り上げることも工夫されてよい。大切なことは、クラブ会報誌や地区会報誌などを通じてクラブ関係者だけで納得してもPR効果は薄いことだ。年次大会でPR賞の方法で表彰するよりも、クラブの外部に向かって何らかのPRに取り組んだ方が望ましい。図のような各種団体のPR方法の他に、例えば地区や複合地区などの主要日刊紙に年1回程度でも国際貢献の記事を掲載するPRが考えられよう。しかも人口数が少ない地域社会になるほど、国際貢献活動を担う団体が概して少ないので、この種の活動が地域社会にPRされる意義は大きいであろう。

# 「友を失う方法」

吉澤 隆志（東京早稲田）

「自分の意見を無理やりに押し通す」「自分の利益だけを第一に考える」「他人の気持ちを考えない」「ルールを無視する」「人をけなす」「成功は自分の力にして、失敗は他人の責任にする」「自分の殻から抜け出さない」「皆の中に入っていかない」「人と協力をしない」「自分も同じことをしているのに、他人がしていると非難する」「物事に責任を持たない」「自分がいつも中心になっていないと気が済まない」「役職に就きたがる」「役につけないと嫌がらせをする」「金銭にだらしがない」「自分が話をしている時に人が喋っていると『話を聴け！』と怒るくせに、人の話は聴かずに喋っている」など。自分だったら、こんな人とは友達になりたくないなと考えていくと、その基準は人によって異なってくるからますます増えていくであろう。

6月に各地区で次期三役セミナーが行われた。たまたまそのセミナーに出席したところ、そこで久しぶりに10年ほど前に自分が書いた、『会員のドロップ防止対策はあるか？友を失わない方法とは？』という小冊子が配られたのを手にして懐かしくなると同時に、その内容がそのまま現在にも通用する、ということを発見して驚きを禁じ得なかった。

今、ライオンズクラブは会員減少に悩んでいる。せっかく入会したメンバーが退会していくのを見るのは大変残念なことである。クラブ・ライフが楽しくて入会していることが自分にとってメリットとなり、勉強になることであるのなら、誰しも退会することは考えないはずである。事業がうまくいかなくなったとか、病気になってしまったなどが原因で退会の止むなきに至ったというのなら、それも仕方のないことであろう。しかし、あちこちのクラブで会員減少の原因を聞いていると、人間関係のもつれや感情的対立など、もう少し双方が大人になっていれば決別までには至らなかったのではないだろうかと思われる原因が多いように見受けられる。

まだ人間形成の途中にある若い時なら、お互い良いも悪いも分からぬうちに、友達になってしまい影響し合うことも出来るが、一国一城の主となって自分というものが出来上がってしまうと、自分の殻を壊すことが出来ず、親しい友達をなかなか作れないものである。それがライオンズクラブに入会したことにより、社会奉仕という目標の下、楽しいクラブ作り、クラブの活性化のために何の経済的利益にもならないのに、良い大人たちが口角泡を飛ばして口論する。そこには年齢や社会的地位の上下などは関係ない。このような、ライオンズクラブを通して知り合い、友達となった多くの人、それはライオンズクラブがな

かったら知り合えなかった人たちであるとするならば、本当に一期一会ということを改めて認識させられる。

こうして知り合えた友人だからこそ失わない努力、方法を見つけなければいけないのに、ライオンズクラブの中で「友を失う方法」がまかり通っていたのでは話にならないし、こうしたことで会員が減少していくのは本当に残念なことである。ただ、いちばん気をつけなければいけないのは、自分が「友を失う方法」をやっていながら、それに気がついていないということではないだろうか。

（図書出版・71歳）

## 輝いて人生を生きる

川瀬 象策（大阪帝塚山）

私は、大阪帝塚山ライオンズクラブに入会させて頂き37年になります。ライオンズクラブのメンバーとして、誇り高い行動とクラブの活動を私なりに努力し務めて参りました。

人間は人という字のごとく持ちつ持たれつ、共存共栄の心で生きることが大切であると思います。

人生を生きるための原点として、私は次のことを心掛けています。

1　ルールを守る

どんなところでも規則があります。そのルールをよく学び守っていける人になる。

2　マナーを心掛ける

礼節という言葉を心に置き、親しい中にも礼儀あり。「あいさつ、言葉、返事」すべて相手を見ながら接する。

3　和を築く

気配り心配りをし、会話を忘れずにコミュニケーションを図る。

私は、以上のことを生活の中に取り込み、人から好かれ信頼されるよう努め、生きる喜びを感じています。

しかし、現代社会においては、このような基本的なことを忘れがちであり、自分本位な行動を取りがちです。それではあまりにも、人として温かみのない殺伐としたつながりになるのではないでしょうか。だからこそ我々はその手本となる行動で、次世代に受け継ぐことが大切だと考えております。

最後に、僭越ながら私の長寿健康法を「あいうえお」になぞらえて紹介させて頂きます。

「あ」安眠：一日最低6時間～8時間の睡眠を取ること

「い」色気：年を取っても色気を忘れないこと

「う」運動：毎日自分に合った運動を行うこと

「え」栄養：1日30種品目（食材）を取り、バランスの取れた食事を心掛けること

「お」おしゃれ：いくつになってもおしゃれを忘れないこと

この五つの事柄を実行すれば、長寿で幸せな人生が送れると確信しています。

私は心身共に健康を保ち、ライオンズクラブのメンバーとの愛と友情のコミュニケーションを図り、和を築き幸せに生きる喜びを感じながらクラブ活動に邁進し、輝かしい人生を悔いなく暮らして参りたいと思っております。

（割烹料理業・77歳）

## 絆

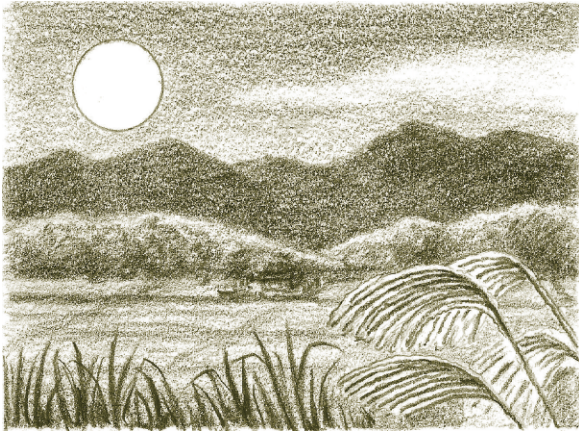
永岡 栄子（島根県・浜田マリン）

私は、糖尿病・脳梗塞・脳腫瘍を患いましたが、医学の進歩と医師の技術の向上により治して頂くことが出来ました。しかし、どうしても治らないことがあります。

それは、早合点・いらんこと言う病です。

親友は、「2～3秒考えれてから口を開い

て」と言います。息子からも「いや、5秒は必要だ」と注意されています。にもかかわらず、この病気はなかなか治らず、失敗ばかりしています。

数カ月前のこと、新年度の役員も決まり、大切な準備理事会の席で発病してしまいました。冗談で口にしたことが相手を嫌な思いにさせ、口論となってしまったのです。先ほどまでは、9階の窓から若葉の緑に桜が映え、一枚の絵を見るような、穏やかな春うららでしたのに、私の失言で室内は急変し、黒雲に覆われてしまいました。次期会長の船出の時なのにどうしよう……。しかし、その場ではどうすることも出来ませんでした。

イラスト／小川和政

帰宅してから、すぐ謝ろうと、まず会長に電話をしました。会長は明るく「気にすることはないよ」とやさしくおっしゃってくださいました。

が、その日は、自分が許せず、心苦しく、情なくて眠れませんでした。

「いっそ、退会してしまおうか。でもボランティアは好きだし……」

と何度も何度も同じことを考えて悩んでいるうちに、いつの間にか窓の外は少しずつ明るくなっていました。

「ああ、そうだ。暗く苦しいことばかり考えず、明るく楽しくなるよう努力しよう。退会するのは簡単だけど、無責任すぎる。迷惑を掛けたのに気持ち良く許してくださった会長の下、会員委員長の役を自分の出来る限り一生懸命務めよう。そうすることがいちばんの罪滅ぼし」

と考え、迷いから抜け出すことが出来ました。

5月に入り、今度は、定例理事会でのことです。理事会で決定すべきことを、勝手に自分の考えで行動してしまいました。事後報告でいいだろうと思ったのです。しっかり叱られてしまいました。ルール違反なので当然ですが、その場でなんとか許して頂き、理事会は終わりました。

でも、私はその場にいずらくなって、

「夫が施設から4時には帰るから……」

と、急いでその場を立ち去ろうとしました。

そこへ、

「ちょっと待って」

と、前会員委員長の声。結局、車に乗せて頂くことになり喫茶店へ。理事会のこともクラブの話も一切しないで、楽しく世間話をして心が和みました。

帰る頃になって、理事会でのことを心配して、心静まる時間を与えてくださったのだと気付き、涙が出そうでした。その時の私は、「ご馳走さま」と言うのが精いっぱいでしたが、心の内で「ありがとう」と手を合わせていました。

理事会での失敗の件については、定例会で会長が、誰も傷つけないよう、上手に説明され胸をなで下ろしました。さすがです。

浜田マリン・ライオンズクラブは2年目に入ります。立派なクラブに育つこと、間違いありません。多くの皆様に助けられ、今日有ることを喜び感謝し、精進するのみと自分自身に強く誓いました。

（建築設計・69歳）

# ボストンでのうれしい出会い

杉山　修（京都堀川）

ライオンズクラブの国際大会に参加すると、思い掛けない人たちとのいろいろな出会いがあります。

一昨年のデトロイト／ウィンザー国際大会の時のことは、『ライオン』誌2004年10月号の「獅子吼」で紹介させて頂きましたが、また、今回のボストン国際大会でも、こんな出会いがありました。

ボストンは、大学の街と言われ、市内に約60のユニバーシティーやカレッジがあり、また医学の研究と施設の充実については、先端的な都市と言われています。有名なマサチューセッツ工科大学や、ハーバード大学の広大なキャンパスには、世界に誇る威容を感じました。

大会の開会式が終わった午後の半日、私は市内観光とボストン美術館の見学のオプションに参加。その際、ガイドをしてくれたのが、21歳の可愛らしい日系二世の女性でした。

世界三大美術館の一つといわれるボストン美術館では、各自が自分の好む国の美術品が陳列されている部屋を選んで見学出来る仕組みになっています。ですから、途中からグループもばらばらになり、私は日本語の解説付きのイヤホンを聞きながら、圧倒されそうな見事な絵画や美術品に見入っているうちに、いつの間にかガイドさんと2人になっていました。

彼女はとても親切に解説の補足をしてくれ、2時間ほど一緒に見学した後、疲れたので一服して話をしました。すると彼女が、

「私のおじいちゃんは、京都で歯医者をしています。京都西ライオンズクラブのメンバーでした。もう年を取って退会しましたけど」

と言いました。私は驚いておじいちゃんの名前を聞いてみると、確かに聞き覚えのある名前。「K医院」という歯科医院も覚えがありました。

「で、どうしてこのボストンに?」

「私はボストン生まれのボストン育ちです。だからアメリカ国籍のアメリカ人です。日本語は両親から学びました。父がこちらの大学にずっと勤務していたものですから……」

「で、ガイドの仕事は?」

「私は祖父の歯科医院の跡を継ごうと、こちらで歯科医学の勉強をしています。妹1人と弟3人も学生なので家計は厳しい。自分の学費は自分でと、こうしてアルバイトをしています。学校ではアルバイトは禁じられていますが、特別に認めてもらっています」

「アメリカと日本では、医師の試験制度が違うので、こちらで資格をとって、更に日本でも資格をとらなければなりません。大変だけど、頑張って何年か後には祖父の跡を継いで、京都で開業出来たらいいなあって思っています」

私はこの話を聞いて、胸が熱くなるのを感じました。そして思わずポケットからドル紙幣を取り出し、断る彼女に強引に参考書の一

部にと手渡しました。そして、彼女が京都で、跡を継いで立派に開業する日が来たら、必ず再会しようと約束し、握手して別れました。
とても思い出深い、うれしい出会いでした。

（不動産鑑定士・73歳）

## 国際姉妹クラブ提携の意味

片岡　英信（福島県・白河）

我が白河ライオンズクラブは、台湾・台北市国際獅子会（ライオンズクラブ）と姉妹クラブ提携を締結して30年になる。その間、両クラブは周年ごとに交流を続けて来た。

今年は台北市ライオンズクラブの45周年に当たり、その式典が最近、台北市の国賓大飯店で開催され、白河ライオンズクラブから10人が訪台した。

私は、歩行もままならぬ老齢の身であるが、一行の庇護を受けつつ参加したのには、理由があった。

3年前、白河ライオンズクラブ35周年式典に、台北市ライオンズクラブから20人の来訪があった。その懇談会で、次は台湾で会おうと、一人ひとり固い握手を交わしたのだ。

両クラブが姉妹クラブ提携することになった機縁は、両クラブの医師の交流による。日本で医学を学んだ台湾の医師たちと白河ライオンズクラブの4人の医師が協力して、台湾の恵まれない人々の診療に当たった時期があった。また、その縁で、私の近隣の村に医院を開いた台湾人医師もいる。

台北市ライオンズクラブ45周年記念式典は、厳粛かつ豪華に、2時間にわたって開かれた。その中に30人の入会式もあった。

式典のフィナーレは、出席者全員が立ち上がり、歌いながら両手を上下させ胸に組み膝を打つという、原住民古来の踊りを彷彿させるものだった。軽快でユーモラスで大いに盛り上がった。台湾版「また会う日まで」であろう。

懇談会に入って、私は3人の老獅友にとり囲まれた。いずれも80歳を超えた懐かしい顔だった。「姉妹クラブ提携を締結した時、私が会長だった」と言うと、ライオン張東陽は私の手を放そうとしなかった。情誼に厚い人たちなのだ。

台湾は今、大きく変貌を遂げつつある。日本統治時代の建造物はりっぱに修復されて市民に解放されている。故宮博物院は現在改修中であるが、秋にはエレベーターも設置され、未公開だった貴重な文物も順次展示されるという。また、今年中に台北（桃園）から高雄まで新幹線が開通して1時間40分で走るそうだ。これにはすべて日本の技術が採用されているとのことだ。そうなれば、台北市から日帰りで新高山（現名・玉山）も八田ダムも見られるだろう。

台北市ライオンズクラブ会長・ライオン呉銘裕は、45周年記念誌にこんなことを書いていた。

「敬祝與會貴賓　大家身體健康　萬事如意（共にお祝いくださること光栄です。あなたが健やかでありますように。それがすべてを成し遂げる元となるのですから）」

これに応えてゆくことが、国際姉妹クラブ提携の意味だと思う。

（僧侶・79歳）

ボクがシンガポールに来る機会は意外に多く、最初の何回かは、滞在して観光を楽しんだりしたが、その後はここをベースにして、ブルネイ、モルディブ、パプア・ニューギニア、更にはモーリシャスやマダガスカルといった国々にまで足を延ばすことが多くなってきた。しかし、今回は初心に帰って（?）シンガポールだけの休日を楽しむことにしてみた。

今度の旅は、東京にあるシンガポール政府観光局にもいろいろと教えてもらって、2001年にオープンした、最も新しくて豪華なフラトンホテル（The Fullerton Hotel）に泊まることにした。到着して早速、マネージャーにホテルについて聞いてみた。

「このホテルについて知りたいのですが……」

「はい、ここはもともとは1928年に建てられた政府の合同庁舎で、郵便局なども入っていましたが、歴史的に貴重な外観はそのまま残し、内部を大改造して2001年にホテルとしてオープンしたのです。

それで、『建築遺産賞』や『新しいビジネスホテル世界一』など、数々の賞を受賞をしております。また、ビル・クリントン元アメリカ大統領もお出でになりました」

「そうですか。ここは有名なマーライオン公園も目の前で、とても便利だし、夜のライトアップも素敵ですね。それとレストラン『ジェイド（Jade）』にも行ってみたいですね。何か新しいスタイルの中華料理が食べられるそうですから、今から楽しみですよ」

◆

こうして至福の一夜を過ごしたボクは、翌日何回目かの市内観光に出掛けた。この街は何度見ても飽きないのだ。

まずは、ここシンガポールに来た人が必ず見に行くであろうマーライオン像と、隣に建つ巨大なドリアンに似た「エスプラネードシアター」。そしてラッフルズ卿上陸地点や、最古のヒンズー寺院「スリ・アリアマン」などを訪れた後には、静かで広大なシンガポール植物園にも立ち寄ってみた。このコースは、いつ来ても楽しいルートだ。

ライトアップされたフラトンホテルとマーライオン（左）

更に時間のある方にはマレーシア西海岸の漁村ククップ・ビレッジのツアーもお勧めだ。最初に錫の工場や蘭園などを見学してから、ククップ村で水上生活者の家や、養魚場をボートで回るユニークなコースだ。

こうしてボクはとても楽しく、そして充実した毎日を過ごすことが出来た。

■シンガポール政府観光局：東京都千代田区有楽町1・6・4千代田ビル8階
TEL 03・3593・3388
www.stb.or.jp

# 俳壇

■選者　森　澄雄

【特選】

先斗町人映るほど水を打つ　（兵庫県・西脇）高瀬　博子

（評）先斗町は京都市中京区、鴨川西岸を三条通から四条通まで南北に走る細い一本道。左右に飲食店、料亭などが並び、京都の花街として祇園と並び称される。人が映るほど水が打たれている。

六郷の仏の里や蝉時雨　（大分県・豊後高田）大塚　武臣

（評）大分県東部国東半島は、奈良・平安時代を通じて神仏習合の六郷満山と呼ばれる独特の文化圏を形成していた。そのため全域にわたって古社寺が多い。また、熊野大磨崖仏（重要文化財、豊後高田市）を始めとする磨崖仏が随所にあり、半島一帯には数多くの文化財が残されている。いま六郷の仏の里は盛んな蝉時雨だ。

（投稿要領→8月号62ページ）

【入選】▼

梅雨晴れに奥羽の山の雪化粧　（岩手県・藤沢岩手）藤沢　誠

梅雨明けて蛍遊べる天の川　（山形県・天童）会田　栄治

梅雨空につばめとびかふ水田かな　（千葉県・船橋シニア）田中　英夫

藍浴衣赤き帯しめ子は膝に　（埼玉県・大宮中央）尾形　康夫

天白み郡上踊の果てにけり　（愛知県・名古屋樟）髙橋　忠男

ひとり身のむなしき日あり梅漬くる　（三重県・松阪はなしょうぶ）大西　さよ

白南風の吹き抜く豪農土間広し　（大阪カトレア）吉村美穂子

一望の十勝の平野麦の秋　（大阪プラム）竹田　房子

湖までの近江平野の大青田　（大阪夕陽丘）角野　慶子

湯の宿につきてひと風呂甚平着る　（大阪夕陽丘）中村　豊彦

子や孫の掌を合はせをり原爆忌　（大阪府・東大阪）木村　稔

水打って患者を迎ふ町医かな　（大阪府・池田）池内　彰

山あひの湯宿一軒濃紫陽花　（大阪府・泉佐野中央）豊田フサエ

羅の乙女を濡らす寺の雨　（大阪府・堺浜寺）宮部　嘉博

蝉しぐれ木立の中の風の道　（和歌山県・伊都高野山）慈幸　三沙

# 歌壇

■選者 春日真木子

【特選】

「お見逃しを」と言うがに隅に書かれいる賞味期限を確と調べぬ

（青森県・五戸）吉田 晶二

（評）いま加工食品には賞味期限が書き込まれている。表示の期限内は、おいしく食べられるというので、購入の場合も、使用の場合も、まず賞味期限を確かめるのが常である。が、この表示は案外小さく隅のほうにあり、時には文字が薄く判然としないのもある。掲出歌『お見逃しを』と言うがに」の見方がユーモラスである。期限の迫った食品、或いはオーバーした食品が哀願しているようだ。それを「確と調べぬ」。日常をうたうのではなく、日常から拾いあげた一首である。今号は岩間、荻野作品にも注目した。

（投稿要領→8月号62ページ）

【入選】▼

をとこ坂のぼりし日もありけふ雨の塩竈神社まゐる女坂

（青森県・弘前）岩間 甫

マラソンを終へたるのちに食む西瓜肌に染み込み肌より滲み出づ

（青森県・弘前チェリー）高橋 修一

墓石を洗ひ終へたり石伝ふ水さへ澄みて夏空ひろごる

（栃木県・小山西）大森由紀子

山積の鰯の車に群がりて鴎はひくく道をせき止む

（千葉県・館山中央）荻野 貴子

鮮やかな赤白提灯二つ三つご無沙汰しましたお盆の墓前

（岐阜県・大垣水都）小玉 啓一

朝々を経誦しおればいつしかに梅雨の晴れ間の光がさやぐ

（石川県・羽咋）竹津 弘子

朝霧の深き並木路仰ぎゆく今日の我が道拓く息吹きよ

（兵庫県・和田山）北垣 正幸

幼子の鉢のトマトがさみどりの葉に見え隠れ小さき実むすぶ

（兵庫県・山崎）竹田 長司

あいつづく友の訃報に筆落とし拾えぬままに風ささやける

（高知県・土佐香南）野村土佐夫

先の世に吾の恋いにし人ならむ黒揚羽来てまつわり飛べり

（大分県・中津沖代）松本 達雄

# 柳壇

■選者　大木俊秀

【特選】

地図にない地図を宅配聞きに寄り　（岩手県・藤沢岩手）及川　平一

（評）ピンポーンと鳴ったので出ると、宅配便の人が、「お宅ではないのですが、この家ご存じではないでしょうか」と。よれよれの地図を覗き込む。「これ、古い地図よ。このお宅はね……」。「地図にない地図を」の言い回しが絶妙である。

握手するその手に秘めた火の匂い　（宮崎橘）井上　忠一

（評）握手と言っても、いろいろな握手がある。「火の匂いを秘めた握手」とは、どんな相手、どんな間柄なのであろうか。顔は笑ってはいるが、目は笑っていない、お互いに好敵手同士のそれと解釈したのだが。あるいは、恋情の火なのかも知れない。

（投稿要領→8月号62ジペー）

【入選】▼

町内で古老はここと座らされ　（北海道・釧路まりも）岸本　照之

反抗期子の矢が不意に飛んでくる　（青森県・五所川原）坂本　憲昭

鳩尾に何時も溜まっている本音　（青森県・八戸中央）大久保健峰

各論になると燻り出す火種　（青森県・弘前中央）高橋　　敬

汗も出ぬマネキンの手が団扇持つ　（岩手県・水沢中央）佐藤加代子

いい人といわれ続けてまた幹事　（千葉県・船橋シニア）小嶋　廣次

昔杵今はコインが米をつく　（千葉県・多古）髙岡　信喜

惜敗が残念会で盛りあがる　（静岡県・大仁）山本　順平

松茸の横を通ってお酒買う　（福井県・美浜）山路　義隆

みのもんた俺は何でも知っている　（兵庫県・宝塚グリーン）中島　弘風

トップの座降りてやさしい父となる　（大阪カトレア）榎本　洋子

やめてからしょんぼり見えるゴルフ靴　（京都鴨川）栩谷　四朗

一瞬をレッドカードで終える夏　（鳥取県・倉吉打吹）福井　耕児

美人の湯脚立がほしいこともある　（島根県・松江湖城）長谷川　　孝

げんまんの白魚の指嘘がある　（長崎県・佐世保西）神谷　治雄

選：河相正名（日本写真家協会会員）

菊野善之助
愛媛県松山ホスト
［一休み］

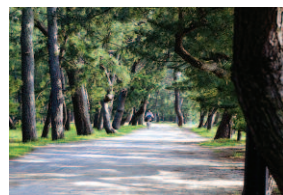
●選評

見事に咲いた花びら。上から射す日差しに花が一斉に咲き誇っている。 花びらの質感も良く、花の芯もボリュームを出すポイントとなっている。元気な花びらの中の異端児的な1枚の花びらに、そっといたわるように寄り添ったカエルが可愛らしい。

画面の上半分は華やかさ、下は光を避けた静かな世界。明暗、静動の対比が、見事に作品の中に織り込まれている。作者のもの静かな優しさが伝わって来る。

安藤正一
愛知県
豊田
［見事な
滝！］

松下正治　大阪梅田新道
［降下中］

高山勇　和歌山県富田川
［マチュピチュに生きる］

吉野耕司　京都府宮津
［夏! 天橋立·静寂の朝］

入選

寺山暲彦　東京柳橋［人形］
横内孟　山梨県南アルプス［しだれ桜］
木村文丸　青森県弘前［静寂］
畔柳東一　愛知県岡崎竜城［雪どけ］
山田武夫　愛知県名古屋樟［盂蘭盆「鮎受難」］
成瀬正幸　愛知県豊田［添乗員さん］
藤根秀夫　愛知県豊田［ピアノ演奏］
岩佐清　岐阜県高山［花火］
植田文雄　静岡県裾野［影富士］
田尾忠士　愛媛県・新居浜ひうち［初夏の朝］
山野智要之亮　広島あさひ［群泳］
上野春夫　広島県三原［稲荷祭り］

全作品は国際協会公式ウェブサイトでご覧頂けます。　http://www.lionsclubs.org/JA/TheLion/MBS/index.html

「竹林七賢人」押絵70×80㌢

押絵の道に入ったのは、次男が中学生になり、時間にゆとりが出来てからです。最初の10年間は先生から与えられた題材、材料で作っておりました。師範の免状を頂いたのを機に、自分で題材を選び、布も古布（主にちりめん）を使うことにして、京都や奈良、大阪などで買い求めました。

気に入った布が手に入ると、どれに使おうかと夢を馳せるのです。私は子どもが好きなので、なるべく作品に入れるようにしています。心が安らぐのです。

全国手芸コンクールに出品して、数多くの賞を頂きましたが、これもその一つで、毎日新聞社賞を頂いたものです。子どもが追っかけっこをしている様が気に入っています。

（ほった　ゑみ・71歳）

堀田ヱミ
兵庫県
神戸あじさいライオンズクラブ
押絵作家

## 伝言板

**■インド洋津波被災地再開発のため、中古車数台の援助を求む！**

一昨年12月のインド洋津波で大きな被害を受けた306・C2地区（スリランカ）から、被災地復興のため、中古車数台の援助要請が届きました。

「306・C2地区は現在、被災地の住宅再建に取り組んでいます。復興が遅れている地域の学校では、いまだ多くの被災者が暮らす仮設キャンプから子どもたちを送迎するためのスクール・バスを必要としています。

地方政府による復興の努力は資金不足のために滞っており、消防車やゴミ収集車、道路建設資材なども不足しています。また病院では救急車や車いす、眼鏡、医療器具を必要としています。

当地区では被災地のクラブと緊密なネットワークを持ち、草の根レベルの活動に従事しています。皆さんのクラブが差し伸べてくださるどのような援助も、最大限に活用させて頂きます。私たちの共通の目標である人道主義奉仕、ライオニズムの名の下に、ご支援をお願い申し上げます。

皆様からのご連絡をお待ちしております。

K.H.Lasantha Goonawardena（306・C2地区ガバナー）」

連絡先：
Mr. K. H. Lasantha Goonawardena
330/08, Saman Mawatha, Lake Road, Boralesgamuwa, Sri Lanka
Eメール：raytronics@stmail.lk

## クラブ会員刊行物

**●星は見ている**
**全滅した広島一中一年生・父母の手記集**

発行者／大井孝三（広島ライオンズクラブ・元地区ガバナー）発行／フタバ図書（TEL 082・294・3322）

A5判　本文209ページ
1,300円

昭和20年8月6日、広島に投下された原子爆弾により死亡した旧県立広島第一中学校1年生の遺族が、昭和29年に出版した手記集。復刊を望む声から、昨年被爆60周年に合わせて再版された。「平和教育にも役立ててほしい」という願いが込められている。

■ライオン大井孝三から読者プレゼントがあります（65ページ）。

**●田舎弁護士会長　ずっこけ日記**

著者／濱田宗一（山形蔵王ライオンズクラブ）発行／ほいづん社（TEL 023・629・8154）

B6判　本文269ページ
1,200円

山形県弁護士会の会長職を務めた2年間の体験をまとめたもの。弁護士とは、裁判とどのようにかかわり、どんな役目を果たしているのか。生々しい体験を通して、その実態を誰にでも分かりやすく、日記風に綴っている。

**●新しいがん治療への挑戦**

著者／吉田憲史（熊本ライオンズクラブ・元国際理事）発行／産経新聞出版（TEL 03・3296・7555）

四六判　本文199ページ
1,470円

がん治療第4の柱として注目されている、免疫細胞治療の第一人者である著者が書き下ろした現代人必読書。3人に1人ががんで死亡する時代、長年の研究成果で、進行がんに対する多数の有効例がまとめられている。

■ライオン吉田憲史から読者プレゼントがあります（65ページ）。

## ライオン誌事務所来訪者芳名録

| 日付 | クラブ | 氏名 |
|---|---|---|
| 8 4 | 東京新橋 | 風間　昭 |
| 8 9 | 埼玉県和光 | 井上　嘉一 |
| 8 9 | 北海道旭川平和 | 山田　稔 |
| 8 9 | 秋田県本荘鶴舞 | 大沼　武且 |
| 8 9 | 茨城県水戸西 | 奥田　俊亮 |
| 8 9 | 静岡県沼津 | 土屋　誠司 |
| 8 9 | 兵庫県姫路白嶺 | 大西　政一 |
| 8 9 | 愛媛県松山西 | 宮内浩四郎 |
| 8 9 | 鹿児島県鹿屋 | 伊集院一男 |
| 8 18 | 茨城県水戸西 | 奥田　俊亮 |
| 8 18 | 栃木県黒磯 | 井上　幸一 |
| 8 18 | 群馬県高崎 | 吉濱　和夫 |
| 8 21 | 千葉県四街道 | 楠岡　巖 |
| 8 23 | 神奈川県横浜保土ケ谷 | 守屋　利彦 |
| 8 23 | 神奈川県横浜保土ケ谷 | 近藤　賢一 |
| 8 24 | 東京豊島西 | 湯浅　善信 |
| 8 30 | 神奈川県川崎東 | 上杉　康之 |

## 読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 編集部

### 国際大会――関心の高さ伝わる

●8月号「世界のライオンズ、歴史の街ボストンに集う」の写真を見ながら感動しておりました。大勢の方々の力で支えられ、また世界の人々の関心の高さが文面で良く分かりました。私も一度、国際大会に出席させて頂きたいと心から思っております。奉仕の精神でこれからもクラブを運営していきたいです。

北海道・室蘭北斗●高橋定良

●私は今まで国際大会に2回（ソウル、モントリオール）、東洋・東南アジア・フォーラムに7回参加しました。しかし、体力に自信が無くなり行けなくなりましたので、8月号でボストン国際大会のことが詳細に分かり、うれしく思いました。特に投票する人が多くなったことに驚きました。

宮崎県・川南●塩月利雄

### 新国際会長の方針を支持

●ジミー・M・ロス国際会長の方針は、クラブの在り方の見直しに目を向け、各クラブが活性化していくことを望み、ガバナー独自が考え、実行に移していくことを提案していた。これは、各地区の特長を出せることを示唆しており、ガバナー、リジョン及びゾーン・チェアパーソン、クラブ会長の自主性に期待している。私は、「主権在クラブ」をもっと前面に出すべきだと考えていたので、認められたように感じた。

岡山県・児島●片山博通

### 視力ファースト事業の実態を知る

●視力ファースト事業の実態（河川失明症にメクチザン投与とその予防効果等）を、8月号「ライオンズ・ニュースカセット／視力ファースト・クイズ」で知ることが出来ました。そして、その恩恵を受けてきた人数は、毎日平均4500人にも達しているという、素晴らしい事業が実在することに感動しています。我がライオンズクラブでも、より一層「ウィ・サーブ」。

秋田県・男鹿●夏井勝博

●裏表紙の「CSFⅡ」に関する感謝の記事広告を拝見して感動しました。我がクラブもモデルクラブとして取り組んでいますが、更なる努力の必要性をつくづく思い知らされました。

福岡県・飯塚●藤沢泰尊

### 我がクラブでも継続事業を実施

●「サービス・アクティビティ」や「獅子吼」を見ると、継続事業が目に付きます。我がクラブでも、8月13日（日）、御坊市において「青少年の健全育成剣道錬成大会」を和歌山県剣道連盟と共催で開催しました。我がクラブでは、一昨年から継続事業として実施しているものです。

和歌山県・御坊●信濃兵造

### 『ライオン』誌が情報源

●今年度テール・ツイスターの役を引き受けています。よく本誌や地区誌を読んでネタ捜しをしています。毎月2回の役ですが、毎回話題を作ること、例会を楽しくすることを考えています。女性のみのクラブですが自分なりに頑張っています。

愛媛県・松山つばき●大森昭美

●私は『ライオン』誌から多くの情報を得、クラブの方向性を学んでいます。それを短歌という形にして、よく投稿もしています。素晴らしい選者を擁し、毎回とても勉強になります。私にとって、それらが、ライオンズの精神の基になっていることは言うまでもありません。

新潟八千代●荻島俊雄

### 『ライオン』誌に変化が?!

●最近の編集には写真が随所に入っており、文章を読むのが大変楽しくなった。また、イラストもユーモアがあり、飽きないものが多い。これからもぜひ続けていってほしいと思う。

大分県・豊後高田●大塚武臣

# クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べ換えてください。正解者の中から10人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は8月号62ページ）。締切は2006年10月20日。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③（点線） | ④ | | ⑤ |
| ⑥ | | | | ■ | |
| ⑦ | | ■ | ⑧ | ⑨ | |
| ⑩ | （点線） | | ■ | ⑪ | |
| ⑫ | | ■ | ⑬（点線） | | |
| ⑭ | | | | ■ | |

解答 □□□　ヒント：秋ですねえ……。

↓タテのカギ

①東京オリンピック開催にちなんだ祝日。
②出所不明の中傷的な手紙など。
③仮名に対する漢字の称。
④男子体操競技の一つ。
⑤自動車同士の追いかけっこ。
⑨硬いものに数字や記号を刻むこと。
⑬持って生まれた性分。

←ヨコのカギ

①奈良県の明日香村にある古墳。極彩色の壁画で有名。
⑥無批判に人の言葉に従うこと。
⑦旧約聖書における人類最初の女性。
⑧車が通って残した車輪の跡。
⑩学識・人格共に優れた人。
⑪肥料に用いる糞尿。
⑫贈答品につける飾り物。
⑬わざと人の手を加えること。
⑭地球温暖化で年々減っています。

# EDITOR'S ROOM

## ウェブ・マガジン - 10月更新
www.thelion-mag.jp

■Interview
ボストンで地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーを務め、引き続き地区ガバナー・メンターとして活動する野中杏一郎元協議会議長（長野県・松本深志）。

■クローズアップ
広島一中原爆死没者遺族会会長である大井孝三元地区ガバナー（広島）。昨年、自身も執筆者の一人として文を寄せている遺族による手記集『星は見ている』を、26年ぶりに再版した。

■キャビネット訪問
10月は330-A（東京）、332-C（宮城）、332-D（福島）、333-D（群馬）各地区のキャビネットが登場。

■世界のライオンズ
東欧圏でライオンズ国が相次いで誕生した1990年、ロシアもその仲間入りを果たした。現在約30クラブ、500人のメンバーが活躍する。そんなロシアの文化都市・サンクトペテルブルクのライオンズを紹介。

■ボランティア・ネットワーク
日本さい帯血バンクネットワーク：臍帯血移植では6個あるHLA抗原のうち4～6個が一致すれば良い。現在保存されている2万4千件の臍帯血は移植希望者の90～95%に適合し得るという。もっと知られて活用されて良いのでは？

## 読者プレゼント

■梅干を10人の読者に
「ふるさと探訪」に登場した奈良県・田原本ライオンズクラブから㈱山田製菓のあられが5人の読者にプレゼントされます。太古から「瑞穂の国」という美しい呼称を持つ日本。その名の通り米は和食の中心であり、米菓・あられもまた伝統ある食品の一つです。しかし、最初から今日のような菓子だったわけではなく、生活の知恵から餅となり、携帯用、また備蓄用として工夫される中で誕生したものでした。㈱山田製菓は国産のもち米にこだわり、あられ一筋に半世紀以上。伝統の技によって生まれる素朴な香りと飽きのこないおいしさを、焼き立ての風味そのままに詰め込んだ、各種あられのセットをお楽しみください。

■『星は見ている』を10人、『新しいがん治療への挑戦』を5人の読者に
「会員刊行物」で紹介した『星は見ている』がライオン大井孝三（広島ライオンズクラブ）から10人の読者に、またライオン吉田憲史（熊本ライオンズクラブ）から『新しいがん治療への挑戦』が5人の読者にプレゼントされます。

### プレゼント応募要項
はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、クラブ名と「あられ」「星は見ている」「新しいがん治療への挑戦」「ベルギー美術館展」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は10月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所

➜ウェブサイトからの応募
www.thelion-mag.jp/modules/form1

■「ベルギー王立美術館展」チケットを10人の読者に
9月12～12月10日、東京・上野の国立西洋美術館で開催される「ベルギー王立美術館展」のチケット（2枚1組）が10人の読者にプレゼントされます。同国最大の美術館から油彩・素描計109点を展示、400年に及ぶベルギー絵画の歴史をたどります。ブリューゲル、ルーベンスといった古典から、クノップフ、アンソール、デルヴォーなど近代画家の名作まで余すところなく堪能ください。

ピーテル・ブリューゲル(子)『婚礼の踊り』
©KMSKB-MRBAB

THEME
### 国際大会参加
シカゴ国際大会参加キャンペーン第一弾。山田實紘国際理事、高橋祥治八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議世話人、木下務八複合地区国際大会委員長連絡会議世話人による鼎談で、従来の国際大会参加に対する姿勢を問い直し、代議員投票の意義を考える。

### PICK UP
代議員投票を始め、国際大会参加の在り方について、実際にボストン国際大会に参加された会員の意見も交え検証する。

### ROAR・ローア
——まるごと336複合地区

11月号は336複合地区特集。「トピックス」は香川県・三豊、高知北、岡山県・笠岡、広島県・福山フラワー、島根県・益田、山口県・下関響灘の各クラブ。「ふるさと探訪」は鳥取砂丘を訪ねる。混同されがちだが、砂丘は不毛の砂漠ではない。白ねぎ、長芋、スイカにメロン、二十世紀梨……。鳥取砂丘ではさまざまな野菜や果物が作られている。そしてもちろん、らっきょう。何がらっきょう作りに適しているのか。鳥取砂丘のらっきょうはなぜうまいのか。料理の名脇役らっきょうを主役に据えて紹介する。

Official publication of Lions Clubs International.

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.



Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org



ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

## 編集室

# 2006年度『ライオン』誌日本語版編集に当たって

ライオン誌
日本語版編集長
◉
菊池清二

ジミー・M・ロス国際会長は2006・07年度を「クラブ刷新の年」とし、新たな発想と方法によって自らの改革を目指す1年としている。そのためにはまず、クラブの活動を徹底的に検証すべきであると、本誌8月号掲載「国際会長メッセージ」で訴えている。

『ライオン』誌日本語版は1958年の創刊以来、ライオンズクラブ国際協会の公式機関誌として「国際理事会方針」「ライオン誌日本語版委員会方針」を基本として編集、発行されてきた。今年度もこの方針に則り、伏見龍、山田實紘両国際理事、新任の谷野徹国際理事のご指導を頂きながら、ジミー・M・ロス国際会長のテーマ「ウィ・サーブ」を誌面を通じて全国の会員に浸透させると共に、会員のニーズと期待にどう応えられるかとの問いを常に念頭に置いて編集に当たりたい。

2006・07年度の計画では、昨年度に引き続き、仙台フォーラム協賛企画として主催したミニ・フォーラム「明日のライオンズを考える」のような会員が議論する場を設けると共に、その議論の内容を本誌上で積極的に取り上げ、問題提起をしていきたい。「ROAR」「PICK UP」など、各委員が担当し、企画、取材するページでも、会員のニーズに応えられるよう更に充実させていく。また、時宜にかなったテーマに絞った付録を発行したい。

今年度の新たな取り組みとしては、ライオンズクラブの地域貢献に関する調査を実施、発表する。また、来年度で本誌創刊50周年を迎えることから、記念誌発行を始めとする事業を計画し、その準備を進めることとする。更に、8月1日に開設した『ライオン』誌ウェブマガジンが、会員の皆さんにとって有益な情報源となるよう改善に努める。

今後とも会員の皆さんのご意見、ご指摘など頂きながら、日本のライオンズクラブの発展を目指して編集に取り組んで参りますので、引き続きご愛読をお願い致します。